Connected Media TOKYO 2017 7-9 JUNE
2017年6月7日(水)▶9日(金) 幕張メッセ

映像新聞
平成29年（2017年） 5月29日 第2289号
株式会社 映像新聞社
112－0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイソービル
電話（03）3942－2161（代表）
ファックス（03）3942－2581
毎週月曜日発行（月4回発行）
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可
1部600円、年間購読料26,000円（税別）
Eizoshimbun 50th Anniversary 50th SINCE 1966
Visual Communications Journal
©映像新聞社

深まる放送と実世界の連携

NHK技研公開

IoT機器や自動車連動で新サービス
ハイブリッドキャストの共通アプリで

NHK技研公開が5月25－28日に東京・世田谷区砧の同研究所で開かれた。AIを活用したスマートプロダクションやフルスペック8K制作システムなどが前面に打ち出された一方、より視聴者に近い取り組みとして注目されたのが、ハイブリッドキャスト（以下、HC）の端末連携サービス用スマートフォンアプリ「ハイブリッドキャスト・コネクト」（通称＝ハイコネ）を利用した各種サービスのデモであった。IoT（物とインターネットがつながる技術）を活用したサービス例も紹介され、スマホを利用して放送と外部サービスをつなげる新たな展開の可能性が示された。

技研公開での展示のポイントはハイコネの拡張機能を使った点だ。これまでのHCコンパニオンアプリは放送起点のサービスでしかなく、広がりがなかった。それがハイコネの拡張によってスマホから放送に誘導でき、さまざまな業界が、放送利用のサービスを展開することが可能になる。

まず注目されたのがIoT機器との連携だ。ロボットとの連携では、ハイコネでテレビと連携したスマホからロボットを制御し、番組と連動する様子を実演。NHKの番組『みんなの体操』の体操に合わせてロボットが同じ動きをしたり、サッカー中継で声を出して応援する、料理番組のレシピをスペイン語に翻訳するといったデモが展開された。

また、温泉のブログを見ていたスマホ利用者が様子もデモした。担当者は「最近はテレビを見ない若者が増えているが、スマホからテレビをからめるサービスを工夫することで放送に誘導できる」と述べている。

自動車の中でのスマホ起点のサービスを展開するデモもあった。デンソーが協力したこのデモは、ドライバーが自動車に持ち込んだスマホのハイコネアプリからブルートゥースで視聴履歴や位置情報をGPS側に送る。走行中、視聴履歴に関連したスポットについて音声ガイド付きでフロントガラスに情報が表示される。またドライブした後、カーナビの走行履歴をスマホに落とし込むと、立ち寄ったスポットに関連した過去の番組を教えてくれる。

デンソーの担当者は「自動運転時代にはクルマの中でどうやって過ごすかが課題になる。利便性の高いアプリケーションの需要は高まると思う。技術的には実現できるサービス。ハイコネのリリースが始まれば一気に進展していくと思う」と語った。〈3面に続く〉


ハイブリッドキャスト・コネクトによる放送と自動車連携

ハイコネは、HCのメーカー共通コンパニオンアプリで、IPTVフォーラムで規格化されている。ハイコネを利用したサービスを紹介するコーナーでは、テレビとスマホ、IoT機器の自動連携や、テレビとスマホを実世界のサービスと連動する例が多数紹介された。CMや番組の価値を高めたり、新たな収益への可能性を感じさせる現実的な提案が見られた。

ハイコネの受像機への実装についてはメーカーと調整の段階で、アプリのリリースは未定だが、実装が実現すれば、テレビ局が比較的簡単に番組やCMをスマホと連動させ、多様なサービスを展開できる可能性が高まる。

シームレスに関連するVODの番組を視聴できるサービスに関連するVODの番組を視聴できるサービスに関連するVODの番組を視聴できるサービ

日本ポストプロダクション協会（JPPA）は18日、記者会見を開き、「三大事業」と位置付ける3つの業務の最新状況を報告した。広岡淳利会長は「JPPAはこれらを中心に業界内外にアピールするとともに、事業を通して業界の発展に寄与したい」と話している。

（1）6月に実施される映像音響処理技術者資格認定試験は、前年より13%多い1641人が受験する。企業や学校単位で受験する層が出ており、企業でも社員教育での利用が増えているという。

（2）「九州放送機器展（QBEE）2017」は7月6、7日の2日間、福岡国際センターで開催される。今回は過去最大の153社234コマが出展する。来場者は3000人を目指す。

セミナーでは、九州の企業による体験型インスタレーション制作事例や、名古屋を本拠とするZaxxの講演「地方が東京進出を果たせた訳（仮題）」など興味深い内容を準備した。より広く会場を見てもらえるよう来場者を2階から入場させ、VRセミナーやドローン実演も用意する。

また、出展を大学・専門学校にも要請している。実行委員会の松嵜真理氏は「機器展の目的の1つは人材の発掘と確保」だと話しており、ステージ装飾やスピーカー・ヘッドフォン試聴会のナレーション収録で、学校と業界の接点をつくっている。

（3）5月26日には「JPPA AWARDS 2017」贈賞式を東京・新宿ワシントンホテルビルで開催し、グランプリと経済産業大臣賞を発表する。

●訂正　5月22日号2面「ドルビーアトモスで映画制作」の記事中、写真のキャプションに誤りがありました。柴田氏は「柴崎氏」、石井氏は「石塚氏」です。関係各位にお詫びします。

日本ポストプロダクション協会
「3大事業」の最新状況を報告
7月6-7日に九州放送機器展



（左から）深谷事務局長、橋詰氏、広岡氏、寺尾氏



QBEE実行委員会の松嵜氏

デジタル・ガーデン
8K HDRで展示会映像を制作
現場の高度な編集作業で実現

デジタル・ガーデン（東京都渋谷区）は、米国で開催された「CES2017」でソニーが展示した横9・7×縦2・7㍍の大型ディスプレイ向けに、8K・HDR映像を制作した。戦う2人を実写でハイスピード（HS）撮影した『Bursting Beauty』と、フルCGの『School of Skeletons』という性格の異なる2作品を手掛けることで、高精細映像の制作力を向上している。

このディスプレイは、微細なLED素子を光源とする「Crystal LED Integrated Structure」技術を利用したもの。高いコントラストと広い視野角・色域での表現が可能で、優れた動画応答性により最大120㌉／秒で再生できる。横403×縦453㍉のユニットを組み上げる構造を採っており、ブースでの解像度は横7680×縦2160となった。



CESでの展示



撮影現場に編集・合成システムを構築

『Bursting Beauty』は、激しいアクションを15倍、最大900コマ／秒でHS撮影し、強い明暗で動きの美しさを表現している。テクニカルスーパーバイザーを務めた二神真一氏は「4Kカメラ3台を連動させて撮影し、4K3面で映像を構成した。3つの映像をスティッチングする際、どのようにズレを合わせるかが課題だった」と話す。

同社はこれを解決するため、撮影現場に精度の高い作業が可能な編集・合成システムを構築した。撮影された4K映像はDITのベーススステーションに入力され、スティッチングエリアをもとに、簡易的に映像を合わせてズレ幅を確認。その後、各カメラにつきMacBook Pro と17型モニターを搭載。キャプチャーには、ブラックマジックデザイン「ウルトラスタジオ」と「メディアエクスプレス」を、各所への分配は同「ATEMスイッチャー」（2M／E）を使った。ATEMは、2M／Eで運用できる小型の4K製品であることから選択した。

最大900コマ／秒でHS撮影

機器間の接続も苦労した点で、3G-SDIを中心に、コンバーターを活用して3Gの仕様を合わせた。モニター出力はフレームレートを優先し、HD／60pとした。Flameは、16年夏から撮影現場に提供する「出張Flameシステム」を利用。今回の現場では、回転する炎を人物に合成する場面でも活用した。

DITの佐々木辰雄氏は、「炎のサンプル映像を使い、どれくらい回転させれば動きに合うのか事前に検証したことで、撮影は思っていたよりもHDRについては、同社が撮影と編集を担当したことが、仕上がりとワークフローの質に貢献した。二神氏は「通常のカメラでHDR制作する場合、映像のダイナミックレンジをフルに使うことになるので、撮影時の露出の決め方が重要になる。そこで、マスターモニターを現場に持ち込み、カラリストがダビンチリゾルブで作業したり、監督と打ち合わせしたりしながら、暗部のデータをどこまで生かせるのか決めていった」と話す。

制作中のガンマカーブはPQ。最終的にディスプレイ用に変換した。

撮影は、神奈川県横浜市の黒沢フィルムスタジオで3日間実施。編集期間は約1カ月で、ソニー厚木テクノロジーセンターで仕上がりを確認しながら進めた。CGを担当した野瀬正裕氏は、「4Kと8Kの違いを大きく感じた。大型ディスプレイに8Kで映すことで細かなディテールが初めて見えてきた」と振り返る。

二神氏も「監督やクリエイティブスタッフが立つCM同様のスタイルで制作したことで、良い作品になった。関係者からも、見ごたえのある8K映像だと評価いただいた」と話している。

『School of Skeletons』は、透明標本作家・冨田伊織氏が手掛ける魚の「透明標本」を元にした万華鏡のような美しい映像。透明標本とは本来、生物の骨格を研究するための学術標本であり、筋肉を薬液で分解して透明にし、骨部分を染色することでつくられる。冨田氏はこれを応用した独自の手法で魚類をさまざまな色に染め上げ、アートとして展開している。



「School of Skeletons」

今回の映像では、冨田氏の作品から8K動画に適したものを選び、写真データをCGのモデルにマッピングして〝動く透明標本〟として表現した。

野瀬氏は「魚の動きはさまざまな動画などで研究して再現した。冨田氏の作品の印象を動きの中で立体的に再現するため、パーツごとに分けてマッピングし、透明度を調整するなど工夫を施している」と話す。映像の高精細感を引き立てるため、オブジェクトをクリアに見せると同時に、背景に水面や波をイメージした微妙な動きをつけ、水泡をぼかすなどして奥行き感をつけた。

利用した3DCGツールは「Maya」、コンポジットは「After Effects」、レンダラーが「mental ray」「Vray」。同社のレンダリングサーバー70台と合わせて、テスト的にクラウドレンダリングも併用した。同社は8Kの3D映像向けにCGを制作したこともあり、ツールや制作体制はこの実績を活かしたという。

ings-jbs
映像/音響機器レンタル・各種メディア販売

【2017年4月新規レンタル開始!!】
EVS
XT3 4RU
【Channel MAX 8ch仕様】
西日本レンタル業界初導入、詳細はお問い合わせ下さい。

【ライブ中継/システム】
FOR.A HVS-100 (花火)
FOR.A HVS-490 (花火) Coming soon...
Canon XJ95×8.6B ISS

【3軸ジンバル/特機】
CARTONI RAMBDA10
DJI RONIN/M/MX
OSMO X5 PRO

【デジタルシネマ】
SONY BVM-X300
SONY PMW-F55
PXW-FS7MⅡ
PXW-FS7/FS5

西日本に 3 拠点で全国発送対応 !!
スポーツ /LIVE 中継 , 各種イベントビジョン出し、
TV 番組や CM, 企業 VP、ENG 撮影にも対応。
機材一式、スタッフもお気軽にお問い合わせ下さい !!

株式会社イングスＪＢＳ
事業拠点　http://www.ings-jbs
《大阪本社》
大阪市中央区今橋1丁目6-19
TEL:06-6202-1247
《福岡ブランチ》
福岡市博多区博多駅南5丁目10-18
TEL:092-415-1247
《グループ会社(広島)》
イングスJBSプラス株式会社
広島市中区榎町8-1
TEL:082-296-1247
FUKUOKA HIROSHIMA OSAKA

〝ハイコネ〟で実用的な提案

通販番組で新たなモデル

〈1面から続く〉

民放各局からも「ハイコネ」を利用した現実感のあるサービス例が紹介された。実用化に最も近く見えたのがTOKYO MXが実演した通販番組のデモである。

ローカル局の通販番組における新たなビジネスモデル構築を目指しているもので、通販番組のオペレーターが、スマホを通じてテレビの視聴者と直接、リアルタイムのコミュニケーションがとれるというデモをした。

ここでは、視聴者がスマホのハイコネ画面で商品の詳細を確認しつつ「オペレーターに問い合わせ」の画面を押すと、オペレーターと直接つながり、スマホでオペレーターの顔を見ながら会話できる。

オペレーターはお客と会話しながら、放送中の商品に合うお勧めセットアップ商品の画像をテレビ画面に表示させ、それをコントロール。名前や住所など、視聴者から聞いた情報をリアルタイムで、その人のテレビ画面に表示してより深いコミュニケーションを図り販売拡大を狙っていく。

通販番組の顧客がオペレーターの顔を見ながら商品の説明を受けることでより親近感が増し、購買意欲も高まるというわけだ。

この視聴者とオペレーターのコミュニケーションは、HTML5におけるビデオ／オーディオ、データ通信の標準規格であるWebRTC（Web Real-time Communications）を利用し、通販会社側の受発信管理サーバーを介して実現している。

TOKYO MXの担当者は今回の通販番組モデルについて「この受発信管理サーバーは既にサービスインしている。ここにWebRTCによるIP電話を加えればサービスの環境は整う。実現のハードルは高くない」と話す。

導入したいという通販会社が確実に出そうなサービスモデルなので、実現はハイコネのリリース次第と言えそうだ。

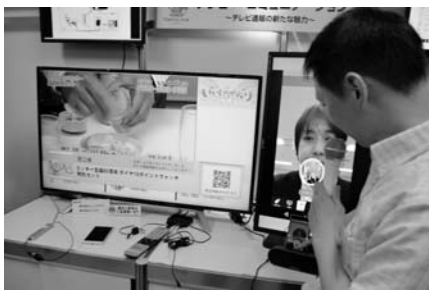
CMを視聴するとポイントが貯まるO2O2O（オンエアー・ツー・オフライン）モデルを提案したのがTBS。日本ケンタッキー・フライドチキンの協力を得てリアルな技術実験デモを展開していた。

これは、視聴者がHC対応テレビで15秒CMを視聴すると、10秒見たところでハイコネに連携したテレビとスマホ、タブレットにポイントが蓄積。そのスマホを持って外出し、ポイントを使える店舗に近付くとスマホにポイントをどのようなクーポンに変えられるかを知らせる通知が届く。ケンタッキーの店舗に行くとそのクーポンがゲットでき、それを利用して対象の商品を購入する。

さらに自宅に戻った視聴者は、対象CMを流している番組をチェックし、視聴予約をかける。オンエアの時間になるとハイコネがテレビを起動し選局してCMが視聴でき、さらにポイントが貯まる、という流れだ。

TBSの担当者は「録画視聴でもポイント蓄積が可能で、タイムシフト視聴でのCM飛ばしが防げる」という。

ハイコネによってテレビとスマホ、店舗がスムーズにつながるので、視聴者の利便性は高い。テレビ局にとっては、CMをトリガーに視聴者が番組を見てくれることも期待できる。


MXは通販番組の新たなモデルを提案


フジテレビ「ドラゴンボール」をゲットしゲームができる様子を実演


TBSはCM視聴ポイントでクーポンから商品購入までの流れを実演

多様な視聴ポイントサービス

フジテレビジョンも「たまる！」というポイントサービスを実演。①配信と放送②人と人③実世界と放送――をそれぞれつなげる3つの事例を紹介した。

「配信と放送」ではPC、スマホ向け無料見逃し配信サービス「＋7（プラスセブン）」をテレビ上に実装。＋7の実際のサーバーと接続し、そのコンテンツがテレビ上で再生できる。

テレビでネット配信のコンテンツを視聴されると視聴率への影響が懸念されるが、ここでは、配信コンテンツに次回放送の通知ボタンを配置。その番組のオンエア時間に合わせてスマホに通知がされ、そのスマホで直接テレビを起動できる。そして番組を視聴すると視聴コインが貯まる。

「人と人」では、ある視聴者がフジテレビのオンエア番組について友人らに知らせたい場合、スマホでハイコネのアプリ画面からLINEでそれを知らせることができる。届いた通知文にはリンクが付いており、それをたたくと8チャンネルが立ち上がる。紹介した視聴者と紹介された側の双方にポイントが貯まる仕組みになっている。

「実世界と放送」では、『ドラゴンボール』を題材に、スポンサーの店舗などでドラゴンボールがゲットできるようにしておく。ボールが貯まると、オンエアの時間にHCでゲームができる。スマホの速度センサーを使って、臨場感のあるゲームを楽しみ、敵を倒していくとプレゼント応募ができるという具合だ。

テレビ朝日は、番組の『ドラえもん』とIoTデバイス（ドラえもんのおもちゃ『ムードもりあげ楽団』）が連動するサービスを実演。テレビからの、おもちゃを動かすためのイベントメッセージをスマホのハイコネアプリが受信し、信号のタイミングに合わせてWi-Fiでおもちゃを制御するものだ。

HCのじゃんけんゲームに勝つとハイコネアプリから「楽団」にその情報がいき、音楽が流れるとともにドラえもんのプロペラが回る。

北海道テレビ放送は自局の医療情報番組「医TV」との連携を示した。同番組は既にHCを付けているが、今回、ハイコネを使い、①SNSアプリからのチャンネル誘導②過去の番組のVOD③実際の受診を支援する行動連携――という進化型サービスを提案した。


テレビ朝日は放送と「ドラえもん」のおもちゃを連動

スカパーJSAT　12月からハイブリッドキャスト

画面から加入手続きや見逃し視聴

スカパーJSAT（東京都港区）は19日に開いた2016年度通期決算説明会で、高田真治社長が、IPサービス展開の拡大について説明した。

スカパー！オンデマンドのIPリニアチャンネルは現在62チャンネルまで拡大。4月にはスカパー！オンデマンドのウェブブラウザーのユーザーインタフェースをリニューアルし、顧客の契約情報や視聴履歴に沿ったパーソナライズされた番組が表示されるなどの高機能化が図られている。

11月からはスカパー！オンデマンドのテレビ向けアプリを展開し、主要各社のスマートテレビに対応する予定。12月からは、ハイブリッドキャスト（HC）を利用した放送・通信融合サービスを展開する予定だ。

ここではHCの画面から、顧客が契約情報を変更したり、未加入者が加入手続きをすることができる。またEPGを過去にさかのぼり、見逃し視聴ができたり、今後放送予定のドラマシリーズを一気に見るということが可能になると紹介した。

将来的にはリニアチャンネルを、スカパー！とプレミアムチャンネルを横並びで視聴できるようにする（現在はスカパー！のみ）。

高田社長は「スマートテレビの時代には、放送とIPをシームレスに連携し、契約者に新たな視聴体験を提供したい」と意欲を示した。

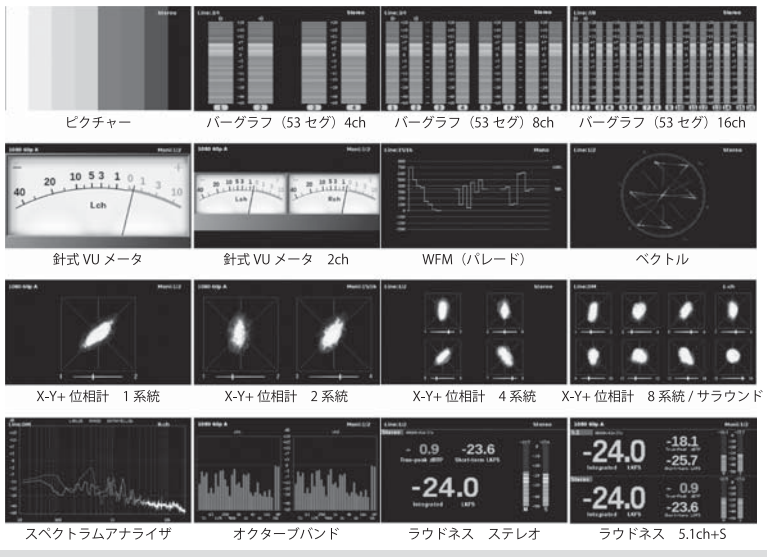
3G-SDI　16ch オーディオ・ビデオ・ラウドネス モニタ　【ウーハー付】

SP-VM2　希望小売価格：520,000 円（税別）



●3G/HD/SD、AES/EBU、アナログオーディオ信号に対応しています。
●ピクチャー、ベクトル、位相、針式VU、バーグラフVU等 16種の画面表示ができます。
●ビデオ信号、ベクトルスコープは高精度の波形観測ができます。(4.3型 LCD)
●5.1chサラウンドのモニタ、ラウドネス測定、AES出力、アナログライン出力ができます。
●大規模ルーティングスイッチャの採用により、スピーカ出力とライン出力を独立してチャンネル選択できます。
●ラウドネスは自動計測(トゥルーピーク、ロングターム、ショートターム)対応音声モードはステレオ、デュアルステレオ、5.1ch、5.1ch+S、モノラル、デュアルモノラルです。

画面表示例



After NAB Show　Tokyo 2017（6/1～6/2 東京・秋葉原「UDX」）に出展いたします。
東北映像フェスティバル 2017　（6/15～6/16 仙台国際センター展示棟）に出展いたします。

株式会社 コスミックエンジニアリング
〒191-0065　東京都日野市旭が丘3-2-11　tel 042-586-2933(代表)　http://www.cosmic-eng.co.jp/　mail: c1000@cosmic-eng.co.jp
●お問い合わせは本社営業部まで　tel 042-586-2933

ライブ・エンターテイメントEXPO／イベント総合EXPO

5月31日－6月2日に同時開催

幕張メッセ
計650社が展示デモ
関連機器・サービスが一堂に

「第4回ライブ・エンターテイメントEXPO」および「第4回イベント総合EXPO」（旧称：ライブ&イベント産業展）が、5月31日－6月2日の3日間、千葉市美浜区の幕張メッセで同時開催される。同イベントは、ライブやコンサート、イベント業界向けの製品・サービスを扱う650社が出展する国内最大の展示会。イベント開催の成功事例・ノウハウが学べるセミナー、特別イベントも開かれる。主催者のリード エグジビション ジャパンは、会期中3万人の来場者を見込んでいる。

昨年夏のリオ五輪閉会式でのデジタルを駆使した演出は、大きな話題となり、多くのライブ・イベント関係者が最新の演出の導入にますます力を入れている。2000年と比べると、市場規模が約2倍に拡大しているというライブ・エンタメ産業。導入を検討する音楽・芸能事務所、劇場、イベントを企画したい企業や自治体などから多くの関心が寄せられている。

「ライブ・エンターテイメントEXPO」では、デジタル技術をはじめ最新の技術を駆使したライブ・イベント演出や関連機材、チケットサービスなど、ライブ・イベント業界向けの製品・サービスが一堂に集結する。コンサート、フェス、ミュージカル、演劇、スポーツ興行、各種ショーなどの開催に必要なソリューションがそろう。

「イベント総合EXPO」では、イベント企画・集客支援会社からイベント機材、グッズまで、イベントや観光ビジネス向けの製品・サービスを各社が出展する。また、地方創生のための集客イベントや観光ビジネスが盛り上がってきていることから、今回から「地方創生ゾーン」を新設した。

国を挙げての政策により、年々増加を続ける訪日外国人。2020年の東京五輪に向けて、外国人を迎えるための整備が進み、また日本文化を発信するイベントが続々と開催されることから、これら、最先端のライブビューイングが体験できる。300型の大画面と22・2chの立体音響で、迫力ある映像が楽しめる。

特別講演「最新テクノロジーを活用した〝演出〟の舞台裏」（5月31日／15時－15時45分）では、リオ五輪閉会式ハンドオーバーセレモニーの演出を担当した、ライゾマティクス取締役でRhizomatiks Research ディレクターの真鍋大度氏と演出振り付け家のMIKIKO氏が登壇。セレモニーからライブ・エンターテインメントの演出まで、これまで手掛けてきた演出の舞台裏、こだわりのポイントなどを解説する。

【開催時間】10－18時（最終日のみ17時終了）
【詳細】www.live-event.jp（ライブ・エンターテイメントEXPO）、www.eventexpo.jp（イベント総合EXPO）



イベントでは大型映像システムが来場者の目を引き付ける（写真＝昨年の映像センターのブース）

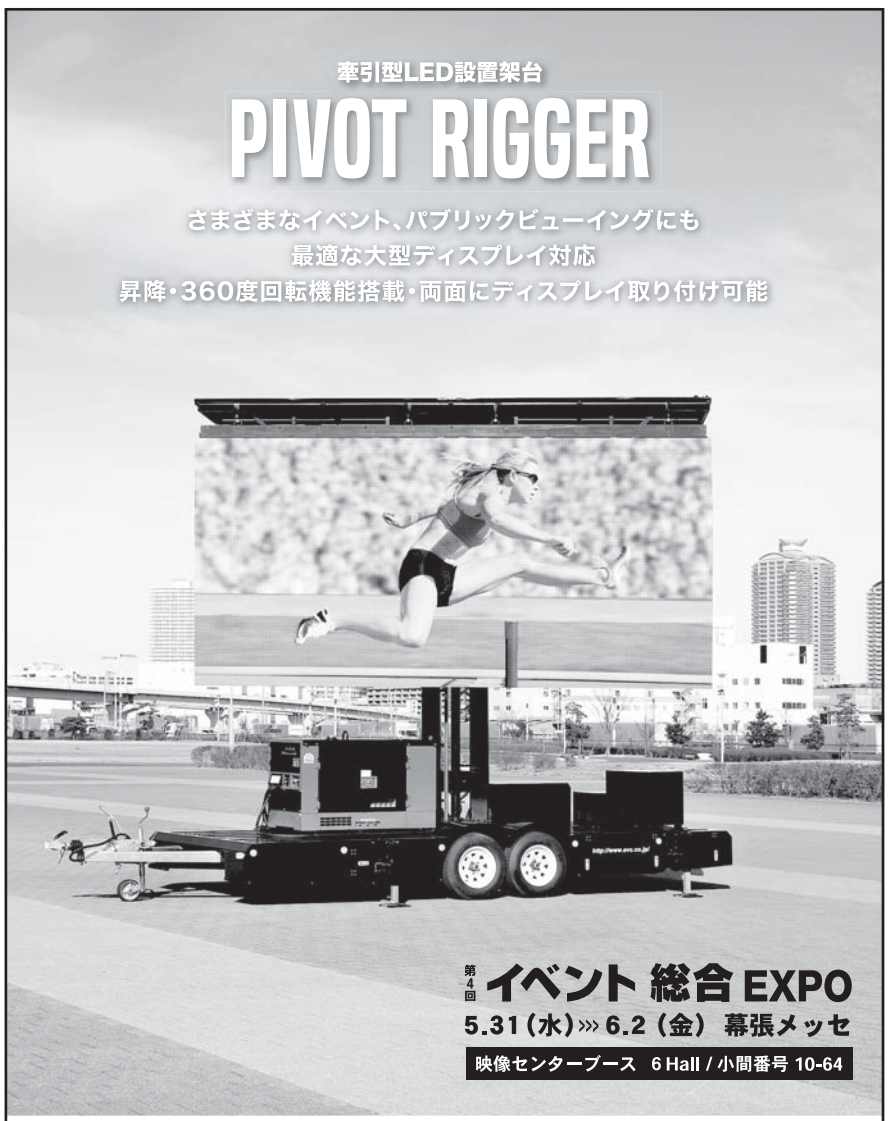
エスシー
モバイル動画の伝送や360°全方位カメラ実演

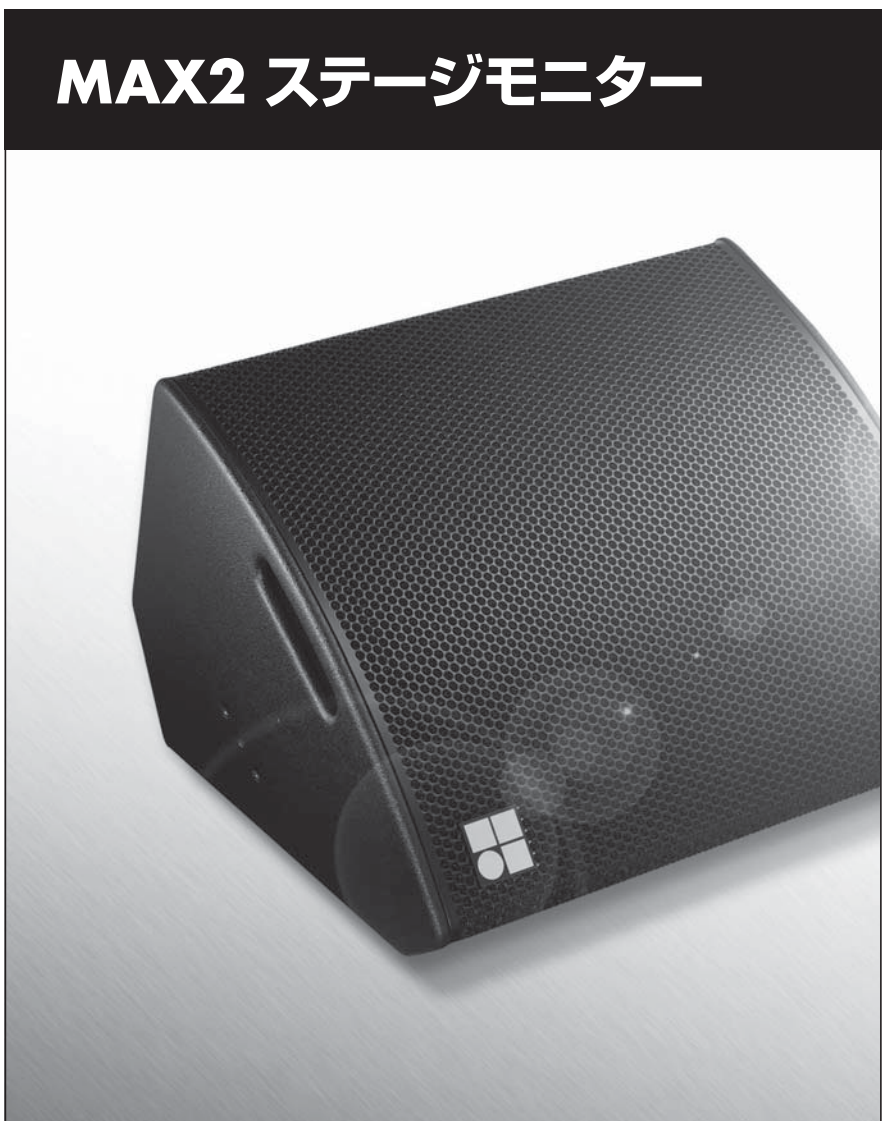
エスシーは、警備、イベント運営、ドローン撮影、メンテナンスなどの手法を変えるアンドロイド携帯の内蔵カメラや、USB接続のHDウェアラブルカメラのライブ動画を、LTEまたはWi-Fi接続で特定のサーバーを介さず、ダイレクトに指定したPCに動画伝送するモバイル動画伝送システムを紹介。セキュリティーや入退室管理に活用される顔認証システム、マーケティングなどに活用される性別年齢識別十人数カウントシステムなどの先進ソフトウエアをローコストで提供する。



モバイル端末映像/音声遠隔伝送エンジン

また、HD-SDIやHDMIの4K／フルHD映像のエンコーダー／デコーダー、HDMI映像を同軸ケーブルで長距離延長可能にするコンバーター、4K／5M360度全方位ネットワークカメラなどを実演する。





特集 ライブ・エンターテイメント イベント総合EXPO

映像センター

けん引型LED設置架台
移動式で簡単に利用可能

創業1968年。間もなく50年を迎える映像センターは、映像・音響機器の販売・レンタルを主業務に事業展開している。国内東名阪だけでなく、海外は中国とタイに拠点を持つ。イベントの成功を目的として、最適なシステムを提案。映像・音響機器を通して企画からオペレーションまでサポートする。


PIVOT RIGGER

今回の同社ブースでは、けん引型LED設置架台「PIVOT RIGGER」を展示する。スポーツ、ライブなどのパブリックビューイングをはじめ、防災訓練やサイネージなどに簡単に利用できる。

大型LEDビジョンは設置の煩雑さや設置時間がネックになっているが、車載型ではそういったことから解放される。「PIVOT RIGGER」は従来の車載LEDとは違い、LEDのスペックをイベント内容に応じて変更が可能。屋外イベントも屋内もフレキシブルに対応する。

アストロデザイン
8Kを SSDで記録
圧縮／非圧縮に両対応

アストロデザインは、レコーダー「HR-7518」は、SSDを記録媒体とした圧縮記録、非圧縮記録両対応のビデオレコーダー。グラスバレーHQXコーデックによる圧縮記録に対応。モジュール拡張により8K RGB4：4：4 120Opの記録ができる（圧縮記録のみ）。10G光入出力端子（U-SDI）を搭載する。

2Uラックマウントサイズの8K55型液晶モニター「DM-3815」は、フルスペック8K SHV（120Hz）に対応。U-SDI、SNAP12形式の信号、3G/HD-SDIを入力して8K映像を表示する。ガンマ、コントラスト、ブライトネスといった映像調整が可能。


HR-7518

8K SHV SSD

ブラックマジックデザイン
Webストリーミングや ライブ収録対応の製品群

ブラックマジックデザインは、ウェブ・ストリーミングやライブ収録に活用できる高品質・アフォーダブルプライスの映像機器を各種取りそろえている。

「ATEM Television Studio HD」は、プロの放送、AVユーザー用の世界初のライブプロダクションスイッチャー。

「Blackmagic Web Presenter」は、さまざまなプロ仕様のSDI、またはHDMIビデオソースをUSBウェブカメラの映像として認識。インターネットで高品質ビデオのストリーミングを実現する。

「HyperDeck Studio Mini」は、プロ仕様の10ビット収録・再生、デュアルSD/UHS-IIカードレコーダー、FTPメディアアップロードなどに対応した世界最小のUHD放送用デッキ。


ATEM Television Studio HD

d&bオーディオテクニック・ジャパン
ラインアレイスピーカー
小型・軽量ながらハイパワー
ライブ用途で高評価

ディーアンドビー・オーディオテクニック・ジャパンは、今回の出展を通じ、オーディオ・テクノロジー・ソリューションズ・カンパニーとしての新たな価値を提案する。

小型・軽量ながらハイパワーを実現し、ライブ用途に評価の高いラインアレイスピーカーT-Series をはじめ、世界のミュージシャンから支持を受けるモニタースピーカー、アンプなどの各シリーズを展示する。

また、DANTE対応機器の拡張性を向上させるオーディオネットワークブリッジDS10について解説するコーナーや、世界市場における多様な設置事例を紹介するなど、d&b audiotechnikブランドのすべてを多角的に紹介する。


3xT10 T-SUB Array

顔認識・性別年齢識別/人数カウントシステム
スマートフォン動画伝送
3つのソフトウェアが実現する警備、各種調査、捜査、マーケティング、メンテナンス・イベントが新たなステージへ！

AV & SECURITY SYSTEM

Hi-Vision HDCVI Network

◆顔認証システム◆



顔認証システムでは、カメラのライブ映像、録画済み映像、写真データ等から顔を高速認知し、標準 1000 名（オプションで拡張可）のデータベースと照合し、そのデータを表示したり、ゲート開閉したりすることが出来ます。
Windows ベースの為、ウェアラブル動画伝送ソフト、性別年齢識別・人数カウントソフトなどとの連動、クラウド対応等のカスタマイズ可能です。
★ソフトウェアライセンス：￥1,000,000

◆性別年齢識別・人数カウント・顔認証システム◆



カメラのライブ映像、録画済み映像から顔を高速検知し、性別、年齢を高速識別します。マーケティングへの活用や性別・年齢に応じた映像情報との連動による販促システム等、幅広い活用用途を提供します。識別されたデータは時間、性別、年齢（5 歳刻み）、人数などを CSV ファイルとして蓄積されるため、加工が容易です。
★ソフトウェアライセンス：￥1,000,000

◆スマートフォン動画伝送◆



アンドロイド端末（スマートフォン、タブレット）内蔵カメラや USB 接続されたウェアラブルカメラからのライブ映像を LTE/WiFi で特定のサーバなどを経由せず、インターネット接続されたパソコンへライブ画像転送するシステムです。PC ビューワは最大 4 入力で IP カメラ映像も取り込むことが出来ます。指定した端末との相互会話も可能で、ビューワ画面の端末への送信も可能です。GPS 機能により送信側の位置情報の地図表示もできます。ウェアラブルカメラとスマートフォンは 1 本のケーブルで接続され、イヤフォーン/マイクはワイヤレス接続です。アンドロイド端末は省エネモードで、画面誤操作を防ぎ長時間の使用が可能で、ベルトケースやアームバンドケースに収納できます。

◆ウェアラブルカメラ・ワイヤレスフォンのシステム構成◆



スマートフォン動画伝送システム標準機器構成：
1. アンドロイド端末（動作確認機種）1 ～ 4 台　@￥87,000
2. HD（720P）ウェアラブルカメラ　1 ～ 4 台　@￥60,000
3. パソコン（デスクトップ又はノート型）　1 台　機種による
4. ソフトウェアライセンス　1 式 ￥1,000,000
オプショナル機器：1. HDMI-HDCVI コンバータ 1 台￥30,000
2. HDCVI デジタルレコーダ (2TB) 1 台￥84,000



ランニングコスト：
アンドロイドフォーン 1 端末毎 SIM レンタル費
1. 100GB/ 1 ヶ月 ¥5,800/ 月　3. 300GB/ 1 ヶ月 ¥8,250/ 月
2. 200GB/ 1 ヶ月 ¥7,000/ 月　4. 400GB/ 1 ヶ月 ¥9,500/ 月



＊ビューワ画面を HD 録画し、ライブ映像 / 録画映像は、PC、iPhone、アンドロイドフォーンから見ることが出来ます。

株式会社エスシー
AV & SECURITY SYSTEM
デモンストレーション実施中！
お気軽にご用命ください。

〒173-0015 東京都板橋区栄町 7-17 Tel: 03-6909-6442　Fax: 03-6909-6443
http://www.sc-tokyo.co.jp
ショールーム：〒173-0011 東京都板橋区双葉町 41-5 メゾンワールド 1 階

TV番組の常時同時配信（下）

NHKの課題は維持費と「負担」

自民党や総務省が2019年のスタートをめざしているテレビ番組の常時同時配信。実施に手を挙げているNHKは、常時同時配信を将来に渡って受信料制度を維持するための第一歩と位置付けているようだ。放送法は、放送を前提にNHKを規定しているため、現法のままでは常時同時配信を始めることはできない。何がネックになっているのか。現状の制度の中でNHKが直面する課題について考える。

（特別取材班）

自民党は「義務化」のシナリオ
19年開始は附帯業務の範囲内

★「適切な負担」

昨年12月に開催された総務省「放送を巡る諸課題に関する検討会」第13回で、NHKは常時同時配信を行う際の財源について説明した。前提は現行の受信料制度を毀損（きそん）しない仕組みとしている。

まず「適切な負担」について、NHKのテレビ放送の常時同時配信を実際に「視聴しうる環境」を作った人に負担してもらうことが適当とした。

ただしこの場合、PCやスマートフォンなど、単にネット接続機器を持っているだけで負担となるわけではない。また既にテレビを持ち、受信契約を結んでいる世帯の構成員は追加負担なしで利用できるとした。

常時同時配信のコストについての試算も明示された。配信ビットレート、アクセス数、システム冗長性などに応じて、費用は大きく変わることが前提だ。その上で地域放送を含む総合と教育の2波を512kbpsで配信した場合、初期投資は数十億円程度、維持費用は年間数十億円から百億円を下回る規模とした。

このNHKの説明について専門家の間には2つの問題があるとの指摘がある。1つ目は年間百億円未満という維持費についてだ。受信料徴収を前提にすると画質の問題が浮上し、512kbpsではなく、放送のハイビジョン画質に近い1Mbpsが必須という議論になり、その場合、維持費は年間2百億円程度に膨らむという。

2つ目は「適切な負担」についてだ。既に受信料支払者は無料で常時同時配信を利用できる。つまり78%の世帯からの増収はない。また未払い者で「視聴しうる環境」を作った人に負担をお願いするという。

本人が納得した場合に支払ってもらう趣旨だが、現状未払いのネットユーザーが簡単に支払うようになるとは思えない。つまりNHKには費用負担のみ発生し、新たな収入はあまり期待できない。これでは「将来に渡る受信料制度の維持」という本来の目的を果たせない可能性がある。

★自民党の考え方

NHKによる常時同時配信の費用と負担について、2020年の東京五輪前の実施にこだわる自民党は別の考え方をしているようだ。

新たなサービスに直接かかわる受信料制度を考えるのではなく、NHKの受信料制度を義務化することで、全体として課題を克服する方向である。

受信料の義務化は、07年に当時総務相だった菅現官房長官が義務化と2割値下げを求めた経緯がある。ところが橋本元一会長（当時）は難色を示し、結果として総務省の担当課長が更迭される事態になった。

自民党の「放送法の改正に関する小委員会」が15年秋にまとめた「受信料の支払い義務化を求める提言書」は2度目である。これを受けて菅官房長官は、「提言を踏まえて総務省で適切に検討することが望ましい」と発言している。

自民党の描くシナリオはこうだ。義務化で受信料の支払い率は2割ほど上がる。しかも徴収のための問題だ。NHKの放送には、全国放送、ブロック放送、ローカル放送の3種類がある。

まず東京発の放送を常時同時配信する場合を想定してみよう。全国放送については、東京から全国に配信してもさほど違和感はない。ところがローカル放送を、そのままネット経由で全国に配信するとしたら、これは附帯業務の枠組みを超え、従来なかった新サービスとなってしまう。

ではローカル放送の時間帯に地域制限をつけ、当該エリア外ではふたをするとしたらどうだろうか。それらの地域では配信は寸断され、常時とは言えない状況になる。

〝常時同時配信〟を文字通りに受け取るなら、ブロック放送もローカル放送も、すべてのエリアで地域制限をして、放送と同様に配信するのが王道と言えるだろう。

しかし実際にそれらを完全に実施しようとすると、全放送局に配信システムと連動する体制が必要となり、莫大な費用を要する。しかも権利問題も考慮すると、全放送局の放送内容を、ネット配信可能か否かを個別に判断し処理しなければならない。その要員の費用も小さくはない。

つまりNHKの常時同時配信には、法解釈と権利問題がついて回り、単純に進められないことが分かる。19年に小さく生んで、20年後に大きく育てようとするにしても、初めから全体を遠望深慮しておかないといけないようだ。解決の道はそう簡単ではない。

★本格的改正は20年

放送法という法解釈を前提にすると、NHKの常時同時配信には考慮すべき点がもう少しある。

そもそもNHKのネット展開は、附帯業務として一定の限度内での展開が認められている。よって同時常時配信も、それによって受信料を徴収するのであれば本来業務に相当し、放送法の根本的な改正を要する。

自民党は放送法の改正について、19年に常時同時配信を始められるように小規模の改正を18年の通常国会までに行おうとしている。本格的な改正は20年の東京五輪後を想定しているようだ。つまり19年開始は、附帯業務の範囲内と位置付けている。

ところが附帯業務としての常時同時配信にも実際には配慮すべき問題がある。例えば配信エリアの問題だ。NHKの放送には、全国放送、ブロック放送、ローカル放送の3種類がある。

まず東京発の放送を常時同時配信する場合を想定してみよう。全国放送については、東京から全国に配信してもさほど違和感はない。ところがローカル放送を、そのままネット経由で全国に配信するとしたら、これは附帯業務の枠組みを超え、従来なかった新サービスとなってしまう。

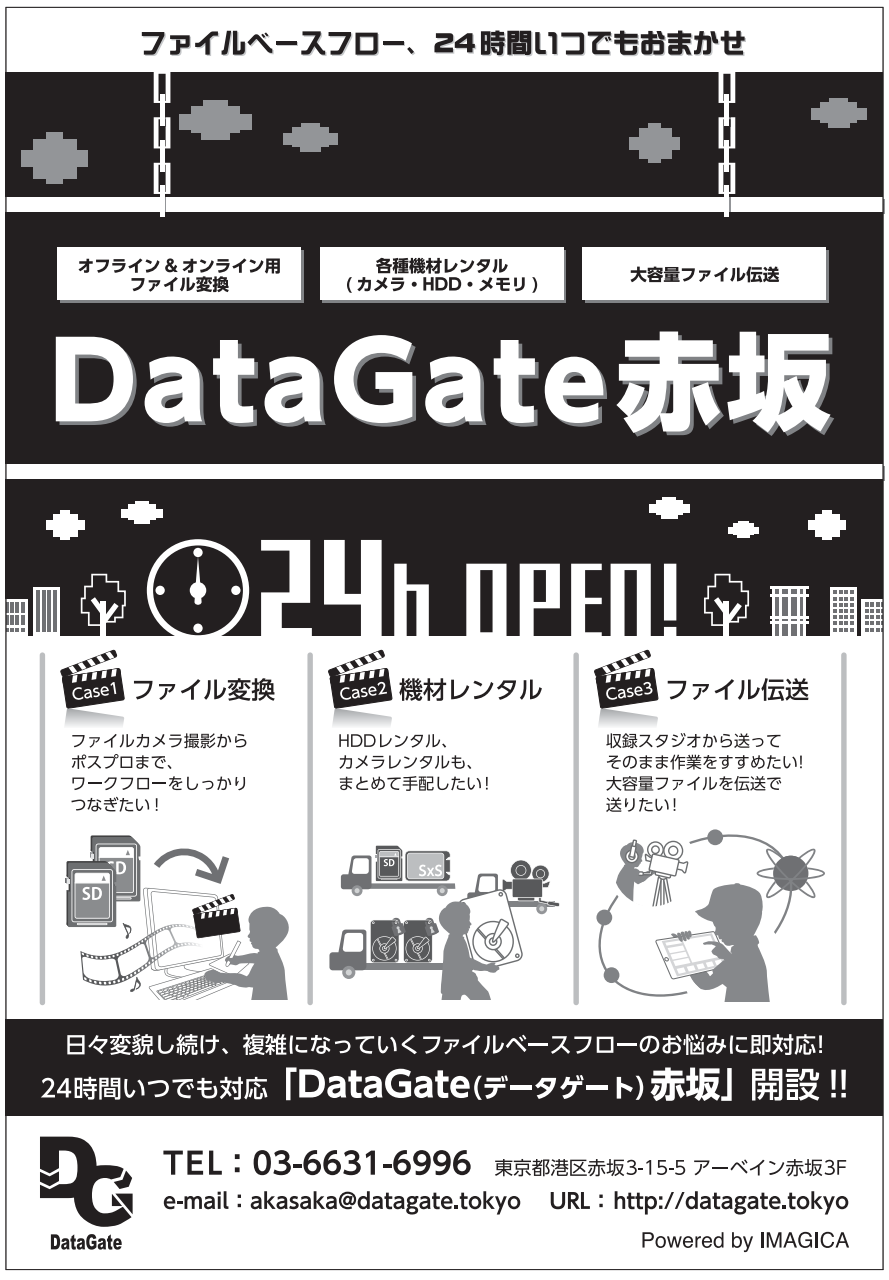
ではローカル放送の時間帯に地域制限をつけ、当該エリア外ではふたをするとしたらどうだろうか。それらの地域では配信は寸断され、常時とは言えない状況になる。

〝常時同時配信〟を文字通りに受け取るなら、ブロック放送もローカル放送も、すべてのエリアで地域制限をして、放送と同様に配信するのが王道と言えるだろう。

しかし実際にそれらを完全に実施しようとすると、全放送局に配信システムと連動する体制が必要となり、莫大な費用を要する。しかも権利問題も考慮すると、全放送局の放送内容を、ネット配信可能か否かを個別に判断し処理しなければならない。その要員の費用も小さくはない。

つまりNHKの常時同時配信には、法解釈と権利問題がついて回り、単純に進められないことが分かる。19年に小さく生んで、20年後に大きく育てようとするにしても、初めから全体を遠望深慮しておかないといけないようだ。解決の道はそう簡単ではない。





KOBA2017が韓国ソウルで開催

4K放送に向け12G-SDIシステムを展示

２９カ国の１０１４社が出展

韓国・ソウルで5月16―19日の4日間、機器展示会「KOBA2017」（韓国国際放送・音響・照明機器展示会）」が、イベントホールCOEXで開催された。主催はコリアE&EXと韓国放送技術人連合会（KOBETA）。テーマに「To UHD and Beyond」を掲げ、29カ国から全1014社が出展。直前の米「NABショー」で展示した4K／8K、12G―SDI、IP製品のほか、大型のLEDディスプレーや音響設備、照明が展示された。

KOBAでは例年、放送局がブースを構え業界内外にサービスをアピールしているが、今回は開催直前に実施された韓国大統領選挙の影響から、KBSと教育放送のEBSの2社のみが参加。出展を控える企業もあり、景気低迷や米国のTHAADミサイル配備による中韓関係への影響を指摘する人もいた。参加者は述べ約4万人。前年よりも1000人ほど減少している。

ソニーやキヤノンは、NABショーで発表した製品や新機能を中心に訴求。パナソニックは、18年に開催される平昌五輪での利用イメージを紹介するコーナーを設けた。

◆朋栄

放送局から要望の強い12G―SDI製品をトータルで展示した。中でも3M／E、48入力のスイッチャー「HVS―6000」は、NABショーにも出展していない初披露の製品。既存の「HVS―2000」よりも大規模環境に対応する。

韓国では5月末から地上波4K放送が始まる。各局とも既にマスター向けスイッチャーや中継車の設備を進めており、今後は、平昌五輪に向けたスタジオ用12G機器を整えていくという。韓国法人を統括する外崎圭吾氏は、「韓国のユーザーから早く製品をという要望を非常に強くいただいており、開発を進めている」と話している。

◆池上通信機

HDからの更新需要に向けた4K、12G―SDIのマスタースイッチャーを展示した。より大規模なスイッチャーの開発に先駆けて開発を進めてきた製品。

カメラでは、4Kの「UHK―430」をはじめ、東南アジアなど2K圏からの来場者に向け2Kの「HDK―73」を展示。また、自社開発の8Kカメラ（プロトタイプ）も実演していた。レンズは4K。

マーケティング本部の秋山浩志副本部長は、「8Kへの更新はまだ先ではあるが、将来必要となった場合に応えられることを訴求した。8Kでも深い被写界深度やコンパクトさへの要望は強く、今後仕様に磨きをかけていく」と話している。

◆タムラ製作所

19インチラックマウント可能な小型のデジタル音声ミキサー「NT110」を出展した。16本のフェーダーと16アナログ入出力、2AES入出力を標準で備える。オプションでMADIスロットを使えるほか、Danteにも対応する。AES67などのAoIP（オーディオオーバーIP）への期待が高いことを受けている。

また、どのような場合でも放送が続けられるよう小型ながらDSP（音声処理）を二重化した。電源もACおよびDC運用が可能。寒冷地での野外運用に耐えられるよう、マイナス10度から40度までの環境で運用可能とした。

さらに、コスミックエンジニアリングのオーディオモニター製品をブースに展示した。

「SP―PM1（twin）」は3G／HD／SD―SDI、AES／EBU、アナログオーディオに対応した16ch。ダブルウーハー付きで高音質に再生できる。「SP―VM2」は3G／HD／SD―SDIの16ch製品で、ビデオモニターと波形モニターを搭載する。「SP104―16」は3G／HD／SD―SDI、AES16chのスタンダードモデル。

今後、韓国内でラウドネス規格が制定されることに備え、ラウドネス値を測定できるマルチオーディオメーター「LDN―M31D」も展示した。

韓国タムラ製作所のディレクターであるリー・ジュンソー氏は、「日本国内で既に共同でビジネスをしているが、韓国でも取り扱いを始めることになり製品を紹介した」と話している。

◆K―WILL

KBSに納入した4K映像音声検査システム「ProQ4000」を出展した。ProQ4000はソフトウエアベースの製品で、12G―SDIで取り込んだUHDTV信号のブロックノイズなどをリアルタイムにとらえる。映像に、検査結果のグラフや検出アラーム一覧をオーバーレイ表示することができる。

KBSへの納入は、韓国の4K放送に向け世界に先駆けて納入した初の事例。KBSのUHDTVマスタースタジオ送出システムで、4K放送用映像のリアルタイム品質検査に運用される。

通信会社のKTに、4K対応画像評価装置「VP4000」を納入したことも紹介した。

◆ビジュアルリサーチ

VRiは、キャラクタージェネレーター「Karisma CG」などを実演した。同社製品は韓国放送局で広く使われており、今回の韓国大統領選挙の報道や解説で活用されていたという。

◆IDX

Vマウントタイプリチウムイオンバッテリーの新製品2種類を展示。「DUO―C190」の後継「同C198」は191ワットッ時、「同C95」に次ぐ「同C98」は96ワットッ時と容量が増加した。利便性を高めたのも特徴としている。カメラとはSMBusで通信するため充電容量などの管理が可能。残容量は5個のLEDで10段階表示される。また、マウント部分を照らすLEDライトを搭載し、夜間撮影での使いやすさを高めた。滑りにくいよう持つ部分も改良した。日本では秋ごろ発売する。

さらに、DUO―C198の最大出力をユーザーの要望に応えて強化。25度で13ヘッチアンを実現した。従来は45度表示だけだったが、環境温度ごとの最大出力を表面ラベルに明記しており、消費電力が大きなカメラや、D―Tapから電力を使うときでも安心して運用できるという。

◆デジタルフォーキャスト

多様なデジタル・アナログ信号をアップ／ダウン／クロスコンバートする「X_TS」などを訴求した。簡易アナライザー機能を搭載し、5型タッチパネルから操作できる。商品の多彩さを示すワークフローも展示した。

◆東放学園

例年、会場で唯一の学校法人として出展。今回も現地学生や企業へのアピール、卒業生との交流を目的にブースを構えた。同校の生徒は年々増加。日本国内での就職率も高く、今年は韓国に帰った生徒の方が少ないほどだという。


KOBAの会場


パナソニック


ソニー


12Gスイッチャー


朋栄


マスタースイッチャー


池上通信機


コスミックエンジニアリング製品を取り扱う


タムラ製作所


K-WILL


IDX


ビジュアルリサーチ


デジタルフォーキャスト


東放学園

After NAB Show 出展者一覧

大阪会場	
小間番号	出展者名
01	メディア・インテグレーション/ROCK ON PRO
02	シグマ
03	ブラックマジックデザイン
04	Spectee
06	NAB Show 2018
07	西華デジタルイメージ
08	エーディテクノ
09	日本コントロールシステム
10	サードウェーブデジノス
12	キャムキャスト7
13	ATOMOS
14	ヴィレッジアイランド
15	EIZO
	Inter BEE 2017 / CEATEC JAPAN 2017

東京会場	
小間番号	出展者名
01	EIZO
02	エクセルソフト
03	Too
04	ATOMOS
05	アイ・ディー・エクス
06	ユニテックス
07	Visual Research Inc.
08	ニューエックス
09	キャムキャスト7
10	武蔵エスアイ
11	西華デジタルイメージ
12	リーダー電子
13	ビジュアル・プロセッシング・ジャパン
14	シグマ
15	クロスイメージング
16	日本アイ・ビー・エム

小間番号	出展者名（東京会場続き）
17	Spectee
18	日本デジタル・プロセシング・システムズ
19	HGSTジャパン
20	メディア・インテグレーション/ROCK ON PRO
21	エヌ・イー・ピー
22	POVCAM
23	ユニアデックス
24	平和精機工業
25	伊藤忠ケーブルシステム
26	コスミックエンジニアリング
27	ヴィレッジアイランド
28	オタリテック
29	Mellanox Technologis/サーヴァンツインターナショナル
30	マウスコンピューター
31	アドビ システムズ
32	日本コントロールシステム
33	アビッド テクノロジー
34	エムアイシー・アソシエーツ
35	AJA VIDEO / ASK M&E
36	テクノハウス
37	キヤノンマーケティングジャパン
38	テクノロジー・ジョイント
39	サードウェーブデジノス
40	エーディテクノ
41	AWSエレメンタル
42	大阪工機
43	共信コミュニケーションズ
44	ATV
45	ブラックマジックデザイン
46	フォトロン
47	NAB Show 2018

After NAB Show 2017開催

最新機器を日本で披露

大阪 5月30日
東京 6月1、2日

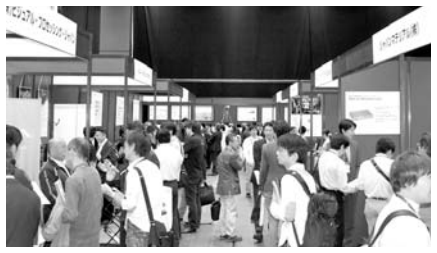
世界的な傾向も報告

世界最大の放送・映像業界のイベント「NAB（エヌエービー）ショー2017」（米国・ラスベガス）で各社が発表した新製品などを日本で披露する「After NAB Show（アフター・エヌエービー・ショー）2017」が、5月30日（大阪会場）、6月1、2日（東京会場）に開催される。機器展示のほか、NABショーでのトレンドを分かりやすく解説するセッションも開き、放送・映像業界の最新動向をいち早く把握することができる。

NABショーでは、4K・8K、HDR（ハイダイナミックレンジ）、OTT（動画配信サービス）など次世代放送の流れが徐々に勢いを増すなか、映像伝送インタフェースにおけるIP と12G-SDIの展開が焦点となった。それに対応する機器・技術の進展もみられ、各社が新製品を競演し注目された。

After NAB Showのセッション「NAB Showレポート」では「OTTが加速する、メディアの構造転換」と題し、映像新聞論説委員の杉沼浩司が登壇する。NABショーでは、OTTサービスを開始することを想定した商品が目立った。容易にOTTサービスが開始できることは、多くの地上波局にとって新しい収入源をもたらし、広告価値を高めることになる。一方、番組供給でAI（人工知能）の支援を活用する動きが見られるなど、コンテンツ提供への新たな動きについて報告する。

ほかに技術解説やワークフロー改善の提案、最新トレンドなど、多様なセッションを実施する。


昨年の東京会場の様子

◆開催概要

【大阪会場】▽名称＝「The 4th After NAB Show Osaka 2017」▽会期＝5月30日▽会場＝グランフロント大阪北館タワーB10階（大阪市北区大深町）

【東京会場】▽名称＝「The 5th After NAB Show Tokyo 2017」▽会期＝6月1、2日▽会場＝秋葉原・UDX（東京都千代田区外神田）

【入場登録】https://regist.jesa.or.jp/afternab2017

【主催】日本エレクトロニクスショー協会、NAB日本代表事務所（映像新聞社）

【後援】NAB（National Association of Broadcasters＝全米放送事業者協会）

【詳細】www.after-nab.jp



編集作業を大幅に効率化へ

アビッド テクノロジー



NEXISメディア共有ストレージ

Avid NEXISメディア共有ストレージは、4Kなど高解像度制作に対応。1シャーシ当たり600Mbpsへ帯域幅を向上、ストレージ容量はプロジェクトニーズに合わせて20テラバイトから最大2・88ペタバイトまで拡張可能になった。

Avid Media Composerは、高解像度制作に対応し、高性能音声解析により必要なテイクやクリップを素早く検索できるPhraseFindオプション、台本と関連メディアファイルを同期させるScriptSyncオプションを追加した。

PlayMakerは、スポーツハイライトやニュース速報にすばやく対応するオールインワン制作ツール。最新のハイライトやスローモーション再生のためのサーバーおよび付属コントローラーで作業をスピードアップする。

AWS エレメンタル

AWSエレメンタルは、放送とIPの融合化における煩雑なビデオ処理ワークフローを合理化し、最大限に活用できる、クラウドおよびオンプレミスの映像処理システムを紹介する。

クラウドベースによるライブチャンネルプレイアウト機能、オートメーション制御によるベースバンド入力とファイルベース入力間のシームレスな切り替え、フレーム精度のLive to VOD処理などに加え、新ライブエンコーダー製品（L010シリーズ）の動体デモを実施する。

会期中に併催されるセッションでも講演する（6月2日／12時30分－13時「AWS Elementalの最新アップデートとクラウド加速」）。

4K／12G－SDI対応製品

コスミック エンジニアリング

コスミックエンジニアリングは、4K／12G－SDIをベースにした次世代放送制作・中継に欠かせない多様な製品群の展示と新機種を発表する。

UMCシリーズ（放送用4K／12Gミニコンバーター）は、単体バッテリー運用、ラック搭載など4K／12G－SDIベースの制作設備や中継設備に欠かせない、分配／フレームシンクロナイザー／音声MUX・DEMUX／光ファイバー伝送／フォーマット変換など、11機種を参考出展する。



UMCシリーズ

C5000シリーズ（光／12G／4K／3G／HD／SD／アナログモジュールシステム）は、4K放送・IP放送運用に最適にインテグレーション可能な広範なラインアップを有するモジュールシステム。

SP－MX1／MX2（16chミキシングオーディオモニター）は、左右チャンネル独立で16chオーディオミキシングとチャンネルごとのレベル調整が可能なハイパフォーマンスのオーディオモニター。

4K・8K映像を伝送

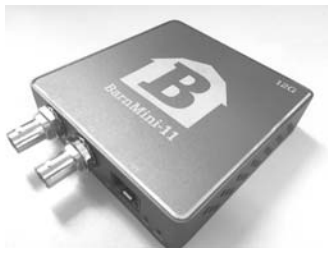
ヴィレッジアイランド

ヴィレッジアイランドは、同社の自社開発製品および放送業界での注目製品を中心に展示する。

VICO－4／8は、4K・8K／60p（4：2：2）のSDI入力映像をTICOコーデックで4：1に圧縮し、1本のSDIケーブルで伝送するTICO SDIコンバーター。

BarnMini－11は、12G－SDIと光のメディアコンバーター。SMPTE2022－6／7対応のSFP＋トランシーバーに対応。同社商品VICOのエンコーダー／デコーダー間接続を、簡単かつローコストで光ファイバー化し、長距離伝送を容易に実現。

Qualesは、高機能、ローコストな映像品質自動評価ソフト。4K HEVCを含むほとんどの放送コンテンツを検査することができる。



BarnMini-11

マウスコンピューター

高性能ワークステーション 快適な4K編集実現



MouseProW9

マウスコンピューターは、4Kノンリニア編集に快適な描画レスポンスを実現する高性能ワークステーションを出展する。

製品は、インテルXeonプロセッサー2基、Quadro P5000搭載のデスクトップワークステーション、15・6型Quadro M1000M搭載のモバイルワークステーション、インテル第7世代CPU搭載で、リアルタイム3DCGの映像制作、編集、制御に適したVR、最新グラフィックス GeforceGTX 1080Tiなど。

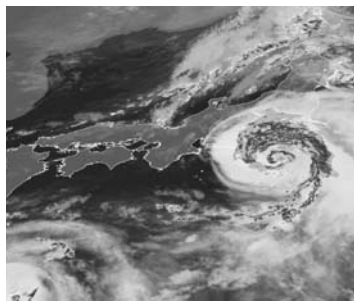
また、iiyamaから、PIP／PBP機能を搭載した4画面分割表示可能な4K対応ディスプレーなどを紹介する。


Beautifully Creative Technology
グレーディング / オンラインフィニッシングマシン
SGO mistika
Finishing – Grading – VFX – Stereo3D – HFR – HDR – 4K – 8K – VR
Quantum
MistikaとQuantumストレージによる
StoreNextとのコラボレーション
avid.com
4K/HD (HDR) 対応ローコスト編集システム及び
MA編集までのトータルシステム
After NAB Show Tokyo 2017
出展します!!
6/1 木 ▶ 6/2 金
Booth No. 43
共信コミュニケーションズ株式会社 Kyoshincommunications
東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル3F・4F
TEL：03-3445-2070　Mail：info_mk@kycom.co.jp
kycom.co.jp

防災情報送出システムを実演

クロスイメージング

クロスイメージングは、放送メディアに向けた地震・津波などの防災情報送出システム、気象情報システム、緊急地震速報システム、CATV向けお天気チャンネルシステムなどを出展する。


気象情報システム

迅速かつ正確な情報伝達が求められる放送業界のニーズに対応するため、アプリケーション・ソフトウエアをはじめ、グラフィックスボード、ドライバーや各種デバイスも自社で設計開発し、保守運用サービスまで一貫したソリューションを提供している。

今後、気象庁から新たに提供されるGPVなどのビックデータに対しても、タイムリーに対応できる態勢を整えている。長年にわたる経験とノウハウを生かし、高速かつ安定稼働を実現している。

共信コミュニケーションズ

8K、VR制作などのワークフロー提案

共信コミュニケーションズは、SGO Mistika、アビッド編集システムなど、4K制作ワークフローを展示デモする。

Mistikaは、NABショーで発表された新機能を紹介。また、Quantumストレージによる StorNextとのコラボレーションにより、UHD・HDR、HFR、8K、VRのワークフローを提案する。


SGO「Mistika」

アビッド製品は、4K／HD（HDR）対応ローコスト編集システムおよびMA編集までのトータルシステムを展示。共有ストレージ（NEXIS｜PRO）を中核に映像編集、MA編集、アーカイブメディアへ、効率の良い環境の構築が可能となる。

レンダリングが不要なリアルタイム編集実現

Visual Research


VRi Karisma RDL

Visual Research社（取り扱い：ジャパンマテリアル）は、スイッチャーなし、レンダリングなしのリアルタイム編集システム「VRi Karisma aCG」に、XAVC、ProResにも対応したマルチコーデック録画再生機「D-Stream」を組み合わせることで、スイッチャーがなくても映像とテロップを合成できる。

フォトロン

4K HDR編集をデモ

フォトロンは、編集ストレージとして「Spycer Box Cell（ROHDE&SCHWARZ）」を、メディア共有ストレージには「NEXIS｜E4（Avid）」と「Media Composer（同）」、「DaVinci Resolve（ブラックマジックデザイン）」による4K HDRワークフローのデモを実施する。


DaVinci Resolve（ブラックマジックデザイン）

このほか、4Kプレイアウト対応マルチチャンネル入出力ビデオサーバー「VENICE 4K」、ストレージソリューション「Spycer Box Cell」、ハイエンドファイルベーストランスコーダー「Vantage」などを展示する。

After NAB Show Osaka 2017
After NAB Show Tokyo 2017
特集

ATOMOS

AtomHDRの機能紹介

ATOMOSは、4K／60p対応のモニター一体型レコーダーSHOGUN INFERNO、NINJA INFERNOをはじめ、SHOGUN Flame、NINJA Flameの高輝度パネルによる「AtomHDR」の機能を中心に4Kカメラとのセットアップを紹介する。


SHOGUN INFERNOなどの展示（NABショー2017）

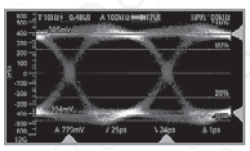
出展製品は、SHOGUN INFERNO、NINJA INFERNO、SHOGUN Flame、NINJA Flame、SAMURAI BLADE、NINJA BLADE。

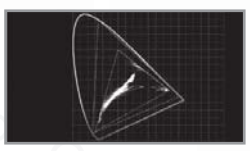
「AtomHDR Upgrade（Included）」を使用し、NABショー2017で発表されたI／Oインタフェースの新製品「Artist｜DNxIQ（アビッド）」と「MediaComposer（同）」、「DaVinci Resolve（ブラックマジックデザイン）」による4K HDRワークフローのデモを実施する。

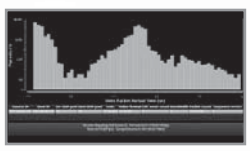
PHABRIX®
broadcast excellence

Qx IP | Qx 12G
IP, 4K/UHD + HDR
generation, analysis & monitoring




Real-time Eye


CIE chart


Inter packet arrival time analysis


Jitter waveform


HDR Heat-map


SFP status monitoring


Signal generation

PQ　TR-03
HLG　AES67
S-LOG3　PTP
PQ, HLG and SLOG3
Emerging IP standards

AIMS Alliance for IP Media Solutions Member

MUSASHI SI SYSTEM INTEGRATION

武蔵エスアイ株式会社
〒161-0033　東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 3F
TEL：03-5996-7455　FAX：03-5982-4784
http://www.musashi-si.co.jp

LEADER
Technology Innovator

12G-SDI

SMPTE425 3G-SDI×4
SMPTE2082 12G-SDI

Network System Manager
Camera　Camera
Storage　IP Network
Camera Controller　Monitor　Monitor

HDR　IP

NEW OPTION UNITS For 4K

LV 5490に「新たな機能」が登場！



New

LV 5490
4K波形モニター
※画面はHDRゾーン表示

■NEW OPTIONS
LV5490SER06 12G-SDI INPUT
LV5490SER07 HDR DISPLAY
LV5490SER08 IP INPUT(NMI)
LV5490SER09 12G-SDI EYE

リーダー電子株式会社
本社・国内営業部 横浜市港北区綱島東2-6-33 TEL(045)541-2122(代) 関西(06)6192-1152
http://www.leader.co.jp

After NAB Show Osaka 2017 / After NAB Show Tokyo 2017 特集

リーダー電子

新オプションで機能が充実

リーダー電子は、新オプションにより機能が充実した、ラスタライザLV7390／ポータブル波形モニターLV5333／シンクジェネレータLT4610／4K波形モニターLV5490を中心に展示する。



LV5333（HDRゾーン表示）

ラスタライザLV7390SER20は、4KオプションLV7390SER2を追加し、4Kフォーマットに対応。3G-SDIのクワッドリンクなど、各種4K映像フォーマットのビデオ信号に対応している。HDRゾーン表示、HDR波形表示も可能。

ポータブル波形モニターLV5333は、HDR対応オプションLV5333SERO2を追加して展示。バッテリー駆動可能なポータブル機でHDRゾーン表示やHDRのスケールによるレベル管理ができる。

武蔵エスアイ

12G-SDIからIPまで各種信号発生器と監視

PHABRIX Qx-12Gは、12G-SDI（1・5G／3G／6G-SDIを含む）からIP（SMPTE2022-6）まで、各種フォーマットの信号発生器および分析、監視をするIP 4K／UHD+HDR generation、analysis&monitoring装置で、そのバージョンアップ版を紹介する。


PHABRIX　Qx-12G

ジッターインサーション、ジッターFFT分析、パソロジカルテストパターン、そしてHDR（PQ対応。HLG&SLOG3は将来対応）、WCG（広色域）への対応、IPでは複数の診断ツールで、パケット到達時間の分析などネットワークトラフィックの問題を評価する機能を提供可能となっている。

エーディテクノ

デジタルフォーキャスト社 SDI/HDMIコンバーター 機能向上した新製品

エーディテクノは、同社が日本国内正規代理店を務めるデジタルフォーキャスト社の新製品2機種を展示。SDI／HDMIコンバーター「X_SDI」は、SDI3入力／HDMI1入力から選択した信号をSDI2出力／HDMI1出力へ同時分配し、フレームシンクロナイザー機能やビデオ／オーディオディレイ機能も搭載。

また、スプリッター機能搭載SDI／HDMIクロスコンバーター「X_ODA」は、選択した入力をアップ／ダウンコンバートし、SDI6出力とHDMI1出力から同時分配可能。

このほか、プラスチック光ファイバータイプの長尺HDMI2・0aケーブルを参考展示する。


SDI/HDMIクロスコンバーター「X_ODA」

高速NASとLTOを一体化

【ASK M&E】

収録現場におけるタイムコード／同期信号の取り回しを劇的に改善する、TimecodeSystems社のワイヤレスタイムコード同期システムや、共同作業が必要な映像制作チーム向けに設計されたGB Labs社の高速NASストレージ&LTOアーカイブ一体型製品〝EasyLTO〟など最新機器を紹介する。

【AJA Video Systems】

レコーダー兼プレーヤー「Ki Pro Ultra」、HDMIからSDIへ変換するミニコンバーター「HA5-4K」、そして3G-SDIからHDMI2・0へ変換するミニコンバーター「HA5-4K-plus」といった4K／60p対応製品などを出展する。

操作性と運用性がさらに進化

【パナソニック】

初代POVCAMから継承した小型・軽量・フリースタイルに、さらに進化した操作性と運用性・充実した。SDXCメモリーカード対応ダブルスロット&リレー記録、高画質および長時間収録に対応したメモリーカードレコーダーを搭載。

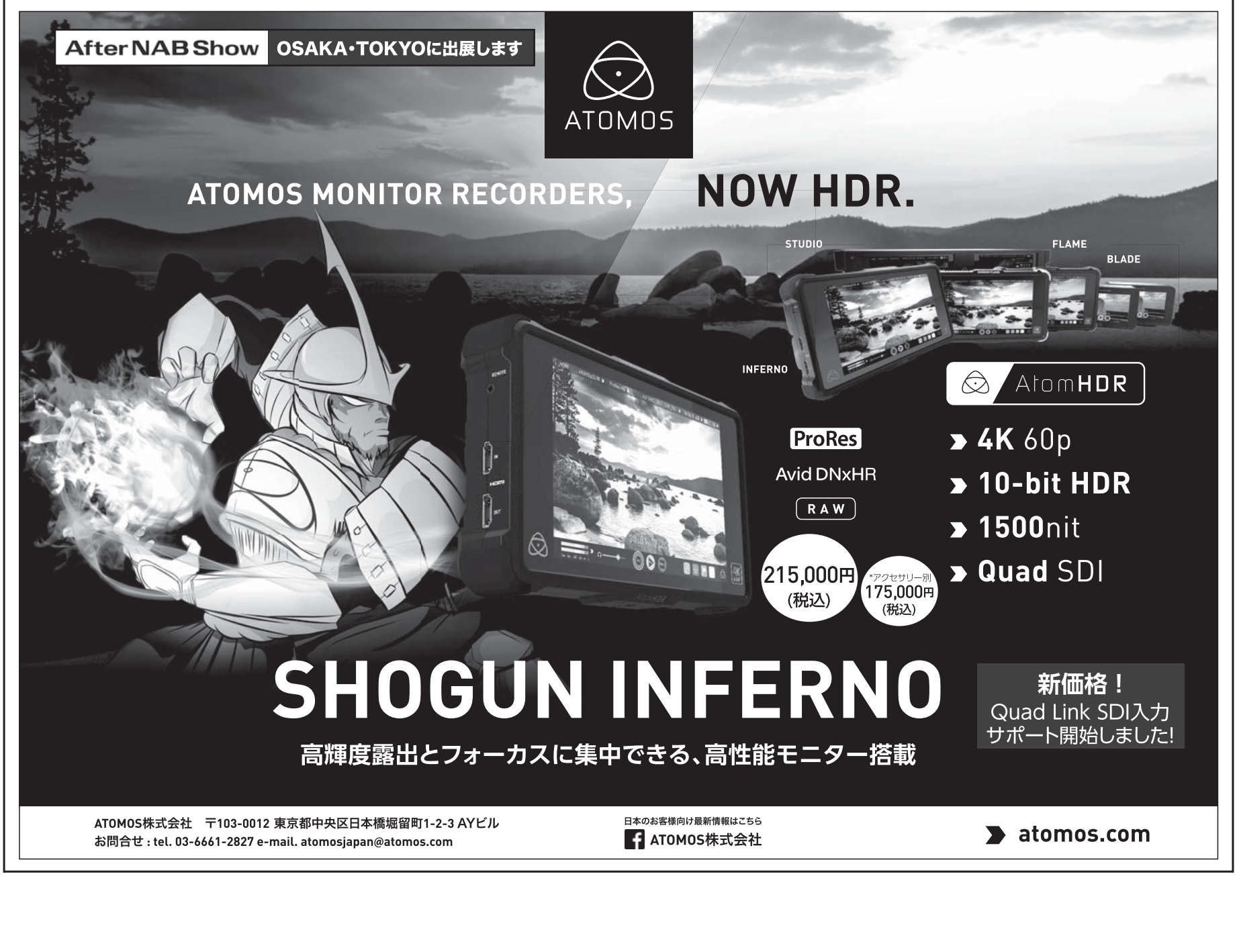
ポストプロダクション向けには、「DaVinci Resolve 14」を中心に、新機能を紹介する。

【ブラックマジックデザイン】

ライブプロダクション向けに、スイッチャーとパネルが一体となった「ATEM Television Studio Pro HD」、SDカードのレコーダー／プレーヤー「HyperDeck Studio Mini」、ウェブストリーミングに最適な「Blackmagic Web Presenter」などを展示。

【ユニテックス】

4K・8K超高解像度映像のアーカイブに最適なLTOテープ製品をデモを交えて展示する。LTFS機能やアーカイブソフトウエアとの併用により、番組制作や収録等でメモリーカード・HDDへ撮り溜めたコンテンツをPCから簡単にLTOへアーカイブが可能。





TOHOKU EIZO FESTIVAL

東北映像フェスティバル2017

映像機器展・映像コンテスト

日時 2017年6月15日（木）10:00–17:00
2017年6月16日（金）10:00–16:00

場所 仙台国際センター展示棟
青葉山コンソーシアム

主催 一般社団法人 東北映像製作社協会

共催 東北情報通信懇談会

後援 総務省東北総合通信局 / 経済産業省東北経済産業局 / 宮城県 / 仙台市 / NHK仙台放送局 / TBC東北放送 / 仙台放送 / ミヤギテレビ / KHB東日本放送 / 日本ケーブルテレビ連盟東北支部 / 映像新聞社

協賛 日本映画テレビ技術協会 / 日本照明家協会東北支部 / 情報通信月間推進協議会

入場無料

「情報通信月間参加行事」

セミナーコーナー

6月15日（木曜日）

11:00 総務省 総務省プレゼンテーション
「4K・8Kをめぐる放送政策の現状について」
講師 総務省情報 流通行政局 放送技術課長 久恒 達宏（ひさつね たつひろ）

12:30 表彰式 映像コンテスト 表彰式

13:30 セミナー1 映テレ協会プレゼンテーション
「4K HDR時代のカラーグレーディング～より広いキャンパスを求めて～」
講師 株式会社IMAGICA テレビ事業本部プロデュース部 渋谷プロデュースグループ 殿塚 功一（とのづか こういち）

14:30 セミナー2 東北映協プレゼンテーション
「大判カメラで撮るウェディングムービーの魅力」
講師 株式会社LIFELOG CEO 長濱 えみな（ながはま えみな）

6月16日（金曜日）

11:00 経済産業省 経済産業省プレゼンテーション
「コンテンツを活用した地域活性化に向けて」
講師 東北経済産業局 コンテンツ産業支援室長 鈴木 光弘（すずき みつひろ）

13:00 セミナー3 照明家協会プレゼンテーション
「LED照明の演色性基準について」
講師 照明家協会東北支部

14:00 セミナー4 東北映協プレゼンテーション
「高精度360度撮影と加工編集を行うVRコンテンツ制作の最新動向について」
講師 株式会社ジョリーグット 代表取締役 上路 健介（じょうじ けんすけ）

協会企画展

■ デジタルシネマステージ NKL/西華デジタルイメージ/ナックイメージテクノロジー/ビデオサービス
デジタルに移行している映画・CM業界。シネマカメラ・4K・8Kカメラを中心に2020年東京オリンピックを見据えた撮影機材を展示。普段接することが少ない機材に触れることが出来ます。

出展案内〈五十音順〉

㉙ アイ・ディー・エクス
⑪ アイ・ディ・ケイ
㊾ ASK ME / D STORM
㊿ ASK ME / AJA VIDEO
⑰ アストロデザイン
② アビッド・テクノロジー
① アルビクス
㊶ 池上通信機
② 伊藤忠ケーブルシステム
㉒ イメージニクス
⑥ インターテック
㊸ エヌ・イー・ピー
⑤ エーティコミュニケーションズ
㉟ エーディテクノ
⑥ ACBIL JAPAN
⑯ EIZO
㉝ オタリテック
㉑ オーディオテクニカ
㉜ カナレ電気
㊷ キヤノンマーケティングジャパン
㉖ 共信コミュニケーションズ
㊻ 共栄商事
㊵ グラスバレー
③ クロスイメージング
㊺ クロマテックシステムズ
⑱ コスミックエンジニアリング
⑲ 興和光学
㊹ サークル
㊷ シグマシステムエンジニアリング
㊳ ジャパンマテリアル
㉕ 昭特製作所
㊴ スチューダー・ジャパン―ブロードキャスト
㊽ ゼンハイザージャパン
㊼ ソニービジネスソリューション
㉔ 立井電線
⑬ ティアック
⑳ テクノハウス
㊸ デジタル・ラボラトリー
㉗ 東京光音
㊼ ニコンシステム
⑨ 日興通信
⑦ 日鐵住金溶接工業
㊹ 日本電気
⑥ 日本ビデオシステム
⑮ ノイトリック
㊻ パナソニックシステムソリューションズジャパン
⑫ 花岡無線電機
㉒ ビデオトロン
㊲ ヒビノ
㊷ PFU
㊱ フォトロン
㊹ フォントワークス
⑭ ブラックマジックデザイン
㉞ プロスパー電子
② 富士フイルム 記録メディア事業部
⑩ 富士フイルム 光学電子映像事業部
㊸ 富士ライト商事
㉚ ベルボン
㊶ 朋栄
㉛ 三菱ケミカルメディア
㉘ 三友
⑩ 緑屋電気
㊺ 武蔵エスアイ
⑩ 武蔵オプティカルシステム
⑧ MEDIAEDGE
④ リーダー電子
㉓ ローランド
㊽ 日本照明家協会 東北支部
㊿ 日本映画テレビ技術協会
㊶ VRソリューション ジョリーグット
㊾ 大判カメラブライダル

民放キー5局の16年度連結決算は5社ともに増収で、営業利益は2社増益・3社減益だった。一方、本業の業績が明確になるテレビ局単体では2社が増収増益、2社が増収減益、そして1社が減収減益となった。各局の動向を概観する。

（次世代メディア研究所・鈴木祐司）

民放キー局の決算①

過去10年と16年度の概要

★TBSが増収増益

民放キー5局の16年度決算は、連結と単体の結果が各局でかなり異なるものとなった。最も好調だったのは連結も単体も増収増益のTBSで、12―15年度は多少の増減があったものの連結も単体もほぼ横ばいだった。しかし16年度はともに堅調で、特に営業利益を大きく伸ばしたのが目立った。

テレビ朝日は連結が増収増益だが、単体は増収減益となった。12―13年度は連結・単体ともに増収増益と絶好調だったが、14年度は連結・単体ともに増収減益。15―16年度は連結が順調だが単体に少し陰りが出ていた。

テレビ東京は、13―15年と3年連続で連結・単体ともに増収増益で推移してきた。16年度は、単体は相変わらず好調だが連結が増収減益となった。全体としては堅調と言える範囲にある。

微妙だったのは日本テレビ放送網だ。12―15年度と4年連続で連結・単体ともに増収増益だったが、16年度はともに増収減益となった。放送外事業へ積極的に投資しているが、営業利益への反映は未だ不十分で、全体の収支としては踊り場に差し掛かった状態と言えるだろう。

フジテレビは連結が増収減益・単体は減収減益となった。同社は10―11年度は連結・単体ともに増収増益だったが、単体は12年度以降ずっと減収減益が続いている。本業の状態が決算にも現れている状況だ。

★視聴率と広告収入

「本業」の地上波テレビの広告収入を見ると面白い事実が見える。筆頭は日テレとフジの対称的な関係だ。

フジは10年度まで7年連続三冠王だったが、広告収入は必ずしも伸びていなかった。そして06年から視聴率が落ち始め、そこに08―09年度の不況が襲って広告収入を大きく減らした。

問題は10年度以降だ。フジは10―11年度にわずかに回復したものの、12年度から5期連続で減収となり、視聴率の状況を反映させていた。一方の日テレは、10年度から16年度まで7期連続で広告収入を伸ばし続けている。14年度にフジを上回り、今540億円以上の差をつけるまでになっている。

テレビ朝日は08―09年の減少がフジや日テレより少なかった。そして10年度以降、最も広告収入を伸ばした。16年度までの6年間で戻した額は約287億円で、08―09年度に失った268億円を補って余りあるところまで巻き返していたのである。

07―09年に大きく視聴率を落としたTBSは、広告収入でも影響を受けた。06年度比で09年度は600億円以上を失った。10年度以降も6年ほど減少基調で推移していたが、16年度は前期比で31億円以上上げた。明るい兆しが出てきたと言えるだろう。

テレビ東は独特の動きをしている。そもそも視聴率が07年度以降下がり始め、11年度が底となった。これに併せて、08―09年度の不況期だけでなく、08―11年度と4期連続で広告収入を落とした。ところが12年度以降3期増収が続き、15年度はやや減らしたが、16年度は再び増勢に転じた。特徴のある編成と番組が、広告主から一定の評価を得ているようだ。

★広告外収入

決算書では、もう1つ気になるデータがある。連結売上高と広告収入の差額だ。当稿では便宜上「広告外収入」と呼ぶ。

その総額は14年度に5局計で8488億円だったが、15年度は9209億円、さらに16年度は9592億円と約1100億円増えた。テレビ局の収入は既に半分強が本業以外なのである。過去10年を振り返ると各局の事業姿勢が明確になる。

もともと各局の連結売上に占める広告収入は7割を超えていた。ところがフジは90年代から多角化を進め、今世紀前半には5割弱に減らしていた。その後もセシール買収や不動産事業の展開などで、今や広告収入率は30・8％にまで減っている。連結の営業利益に占める放送の割合も30・5％。もはや地上波テレビは本業と言えない位置付けだ。

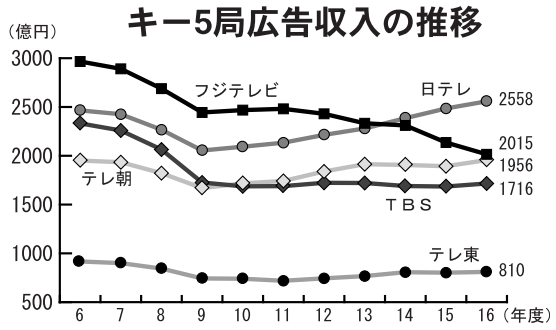
TBSも08年度に赤坂サカスをオープンさせ、小売業の買収も進めるなどして、広告外収入を伸ばしてきた。09年度に比率は5割を超え、16年度は51・7％と、フジに次ぐ多角経営の企業グループになっている。

残り3局は先行2局ほどではないが、広告収入への依存度を、これまで積極的に下げてきた。特に日テレは、ここ数年で急速に多角展開をしている。例えば2010年度の広告外は886億円で、比率は29・8％だった。

しかし15年度は1663億円と5年で倍近くに伸ばし、比率も4割を超えた。ただし16年度は、54億円ほど減らしている。本業以外を安定的に伸ばすのは、いかに大変かが分かる。

テレ朝も広告外を10年度以降で約366億円増やした。比率を7㌽ほど伸ばしている。テレ東も倍増させた。比率にして12㌽ほどの伸長である。

5局全体の広告外収入の伸びは、12―14年度で次第に小さくなっていた。そして15年度は一転して増勢に転じたが、16年度は再び伸び率が下がっている。視聴率減少が顕著になるなか、各局は多角化にまい進しているが、一筋縄にはいかない面もあるようだ。



広告収入 対照的な日テレとフジ

巻き返し顕著なテレ朝 TBSにも明るい兆し

新規開催！「放送」から「産業分野」までを網羅

第1回 4K・8K 機材展

会期：2018年4月4日［水］～6日［金］　会場：東京ビッグサイト

開催発表・説明会に ご参加ください！

日 時　2017年6月13日［火］
9：00～18：00　9部制 1回 45分

会 場　ベルサール新宿グランド
5階「Room E」

参加費　無料

説明会内容
1）展示会概要（5カ年計画）
2）来場予定企業一覧
3）来場者の導入予定製品
4）来場者の予算金額
5）出展決定企業一覧
6）出展費用、空きスペース
7）業界最新動向　…など


弊社主催 接着・接合 EXPO 開催説明会 光景

参加申込みはWEBへ　www.4k8k-expo.jp

主催者　リード エグジビション ジャパン（株）
TEL：03-3349-8568　FAX：03-3349-0598

NAB SHOW Where Content Comes to Life™ レポート

新機能搭載のレンズが登場

進化を続けるシネマ機材

撮影データを積極的に応用
待たれる新型カメラの発売

映画は、コンテンツ制作の大きな要素を占める。ハリウッドメジャーの製作本数は減少しているが、独立系は活発だ。米国の年間リリース数を見ると、ここ数年700本台で微増している。独立系を支えるのが、デジタル化により価格が下がった撮影機材である。一方、光の入口であるレンズは、価格競争とは別の世界にあるようだが、表現力の向上を粛々と続けている。「NABショー2017」では、シネマに関する興味深い動きを映し出していた。

（杉沼浩司）

★映画館に市場あり

映画は、撮影から上映まで、全工程でフィルムを使わない「デジタルシネマ」が当たり前になった。もちろん、監督によってはフィルムで撮影することもあるが、これは特殊な場合となった。10年前であれば、デジタル撮影が特殊で、フィルムが当然だった。状況は逆転した。

米国では、スタジオから映画館業界に向けてのデジタル転換支援資金「VPF（バーチャル・プリント・フィー）」が終了しようとしている。「VPF2はない」と公式には言われているが、展開は不明だ。VPF導入初期にデジタル化した映画館は、設備の更新時期を迎えている。VPFでは、更新までは面倒を見ないとの約束があるとされる。


数々の名作を生んだソニーF65は2012年発売の長寿機である

一方、映画館のデジタル化は、デジタル機材の導入から始まって、館内全体の改革に進んでいる。現在話題になっている案件は、音響設備の強化、プロジェクターの高輝度化といった上映に直接かかわる部分だけではない。座席の更新やコントラスト確保のための内装の更新といった、設備全体に関係するものだ。

HDR時代に対応するためにVPF2、といった考え方も成り立つ。VPF2については、年後半には状況が明らかになると考えられる。

★6月登場

NABショーにおけるデジタルシネマ分野では、まずカメラに目がいく。シネマカメラで大きな貢献があったメーカーの1つであるソニーは、ここ数年おとなしい。旗艦機である「F65」は多くの作品に使われているが、登場からやや年月が経った。国内のある講演会では、8Kコンテンツを制作したプロデューサーが「F65のような古い機種も持参した」という表現をしていた。

登場が望まれるF65の後継機であるが、今年も姿は見えなかった。ソニーは、F65を「アカデミー賞受賞機」として展示していた。

一方、パナソニックは「4Kシネマカメラ」の製品群に、カバーをかけたカメラを置いた。5台のカメラが置かれたが、上位3機種は同社の「VARICAM」シリーズである。そして最もエントリー側に置かれたのは、一眼カメラ「LUMIX」の1モデルであった。

そのVARICAMとLUMIXに挟まれて、カバーを掛けられたカメラが置かれていた。特徴としては、映画的画像、小型軽量、低価格メディアを使用としている。透けて見えるその姿は、一眼カメラ型ではない。立方体に近いデザインが見える。



新開発のアナモルフィック・ズームレンズを前にしたクック・オプティックスのゼラン会長

同製品は、6月に米国で開催のシネギア・エキスポで「プレビュー」され、今秋にリリースという。カメラの世界に新しい機動性を持ち込むものと期待したい。

同様な情報が供給されることになる。今回、パナビジョン、RED、キヤノン、ブラックマジックデザイン、CWソンダーオプティック、ソニーが採用企業に名を連ねた。

昨年のIBCの展示会に続いて、今回も新しいアナモルフィックレンズが登場するアナモルフィックレンズの画像は、心をざわめかす」と、その魅力を語る。

★アナモルフィック

クックといえば、近年のアナモルフィックレンズ攻勢は目を見張るものがある。会長のレス・ゼラン氏は「楕円（だえん）に伸びる光点を実現する姿勢がみえる。

★アナモルフィック

クックといえば、近年のアナモルフィックレンズ攻勢は目を見張るものがある。会長のレス・ゼラン氏は「楕円（だえん）に伸びる光点を実現している。しかし、20世紀の素材は、含有物機製などで、21世紀には使用できない。

素材（硝材）は異なるが、同等の特性を持つレンズを開発したことで、往年の名機は「パンクロ／iクラシック」として復活した。しかも、21世紀版は「／iテクノロジー」を装備する。20世紀の映像でありながら、21世紀の技術を適用することができる。パンクロ・レンズを装備したカメラは、ひと目映像を見ようと、多くの人が並んでいた。

★フルフレーム超越

今回、新しいシリーズが発表された。「S7／iフルフレーム・プラス」シリーズである。現在の多くのデジタルシネマ用カメラは、スーパー35（24・9×18・7ミリ）より小さな撮像素子だ。ただし、最近はARRI ALEXA XTやRED DRAGONのようにこれより大きく、フルフレーム（36×24ミリ）に迫るものもある。RED WEAPON8Kは、フルフレーム以上だ。

これらの大判素子に対応するのがS7／iシリーズである。18ミリから135ミリまで8種類のレンズがそろえられている。T値は2・0で、非常に明るい。フルフレームやそれ以上のサイズの撮像素子に対応したレンズとして、シネマの新らたな世界を開くものとなるだろう。

★レンズも進化

「ザ・クック・ルック」のレンズで知られるクック・オプティックス（以下、クック）は、NABショー直前に同社の「／iテクノロジー」が主要レンズ、カメラ各社に採用されたことを発表した。この技術は、レンズのエンコーダーから、撮影時の情報をカメラに送るものである。ピント、絞りのほかにも多様な情報がカメラに送られ、通常の補正だけでなく、合成などの処理にも活用される。

この技術をカメラ各社が採用することで、どのカメラでも同じ情報を受信、記録できるようになる。また、レンズ各社が採用することで、異なる会社のレンズを使っても、カメラメーカーとしては、これまでにARRI、AATONなどが賛同しており、各社の参加で対応カメラは大幅に増えることになる。レンズメーカーとしては、ZEISS、アンジェニュー、富士フイルム（フジノン）、などが賛同している。


クックの「S7/i」シリーズは、フルフレームまたはそれ以上の撮像素子を指向した新世代レンズだ

また、ソフトウエアでは、AVIDやザ・ファンドリーが対応を表明している。編集やVFXの段階で、撮影データを積極的に応用する姿勢がみえる。

★パンクロ復活

Cookeの著名なレンズの1つである「スピード・パンクロ」は、いまだにファンの支持を得



ポストプロダクションにおける従来のワークフローを継承
そして更なる進化へ

D.O.T キャラクタジェネレータ

オープンプライス（ディスプレー付ターンキーシステム）

- PGM(OA)とPVW(Next)ウィンドウの同時表示により、収録中に次のテロップを作成することができます。
- Dekoと同一のショートカットと、ペイントソフトスタイルの操作性
- リアルタイム出力 (IMEで文字変換中もリアルタイムビデオ出力)
- αチャンネル付き画像ファイルを、登録せずに使用可能
- 縦ロール、横ロールのファイル(長手ファイル)をPNG等の汎用画像ファイルで書き出し可能
- エフェクトやアニメーションを連番ファイル、またはMOVファイルで書き出し可能
- Deko連携オプション（Dekoファイルを即座に映像出力）

［販売］ TOTSU INTERNATIONAL 株式会社 東通インターナショナル 東京都文京区小石川1-21-14 TEL 03-5805-5271 www.totsu-int.co.jp

NAB SHOW Where Content Comes to Life™ レポート

SGO
MISTIKAで8Kデモ
リアルタイム性能を実演

SGO社は、DIポストプロダクションシステム「MISTIKA」8K版をクアンタムのブースでデモした。SGOブースでは、新たにリリースされたVRアプリケーションのほか、MISTIKA 4Kやベーシック機能を実演。8Kデモについては、8K対応高速ストレージを用意し、実演環境も備えたクアンタム・ブースにて、その説明がされた。

8Kデモの1つには、スカパーの8Kトライアルコンテンツが使われていた。アストロデザイン製8Kカメラで撮影された素材を、MISTIKAが8Kの重いデータをカラーグレーディングしたものだ。ストレージは、SAN環境によって、複数ワークステーションで共有できる点を示した。SAN側の共有だけでなく、MISTIKAが8Kの重いデータをカラーグレーディングしながら、リアルタイム作業していることもデモのポイントになった。また、HDR制作工程の中で、HLG（ハイブリッドログガンマ）からREC・709変換しながらカラコレを6レイヤー以上重ねても、リアルタイム動作することを実証した。



Quantum高速ストレージを使って8K編集を実連した


Quantumストレージ

VR版では、SAN共有環境にて、マルチカメラ収録素材と共通プロジェクトを、ラップトップPCも含めた複数のMISTIKAからアクセスし、同時進行できる様子を見せた。

クアンタムでは、8Kシステムに使われた「Xcellis」のほか、SSDフラッシュストレージで64ストリーミング同時出力や、LTOへのアーカイブも実演された。

リーダー電子
HDR、12G対応を訴求
4K製品を一堂に展示



リーダー電子

リーダー電子は、波形モニター「LV5333」のHDRオプションを発表。HDR領域を明るさに応じて着色することで、輝度の分布を容易に確認できる。BT・2100やSTD－B67、ST 2084に準拠したHLGとPQ、S－Log3に対応する。

12G－SDIには、波形モニター「LV5490」やシンクジェネレーター「LT4610」が対応した。波形モニターは、アイパターンを表示するオプションも準備している。

ヴィレッジアイランド
8KをTICOで圧縮・伝送
12G-SDI 1本で可能に

ヴィレッジアイランドは、TICOアライアンスのブースで、SDIコンバーター「VICO-8」を展示した。



TICOアライアンスのブース


VICO-8

「VICO－8」は12G－SDIで入力した8K／60p、10ビット映像をTICOコーデックで1/4に圧縮する。1本のSDIケーブルで伝送できるため中継車での利用に適している。NHKと共同開発した。4K向け「VICO－4」は12G／3G－SDIに対応。ブースでは加盟社の製品を組み合わせてデモした。

テクトロニクス
IP/SDI解析製品を機能強化
リアルタイム画質評価も実演

テクトロニクスは、IP／SDI解析用「プリズム」に「ST 2022－7」によるモニタリングの冗長性を追加した。


ダン氏と「プリズム」の実演



画質評価のデモ

これは「製品を評価したユーザーの要望によるもの」（ビデオ製品ライン事業部長のチャーリー・ダン氏）。PTP同期タイミングの解析や詳細な分析のためのストリームキャプチャー機能、1RUラックマウントモデルも発表した。12G－SDIの対応も開始。IPシンクジェネレーター「SPG8000A」も5、6社で採用されている。

ダン氏は「ST 2110をはじめ、IP移行の方向性が明らかになってきた。近々IP設備のプロジェクトが始まるのではないか」とする。また「4KのIPも、25Gイーサネットにより来年には実現するのでは」とも話している。

4K波形モニター「WFM8000」はPQとHLG、ならびにソニー、キヤノン、ARRIのLogカーブに対応した。

レファレンスなしで画質をリアルタイムに評価する技術も参考展示した。

同社の「PQA」シリーズの実績に基づき、「Mean Opinion Score（MOS、平均オピニオン評点）」を使い機械学習ベースのアルゴリズムを構築したもの。ダン氏は「これにより制作工程の各段階での画質評価が可能になる。当社の画質評価製品はスタジオ用のプリズム、ファイル用のオーロラ、配信用のセントリーがある。同じメトリックを使うことで、測定結果を比較できる」としている。



NABSHOW Where Content Comes to Life　レポート

4K HDR中継車に注目

車載局・可搬局も各社から新製品

NABショーで、予想以上のにぎわいを見せた中継車、車載局、可搬局、超小型衛星通信端末（VSAT）について触れる。この分野での今回の特色としては、まず、オール・モバイル・ビデオ、ギアハウス・ブロードキャスト、モバイルTVグループの3社が初出展を飾り、4KやVR中継車を披露したことだ。次いで、常連のガーリング&アソシエイツとTVプロ・ギアが、最新の中継車と車載局を競演した。さらに、VSATの分野では、今年の潮流となりつつある高性能小型平面アンテナの展示が目に付いた。

（神谷直亮／衛星システム総研代表、メディア・ジャーナリスト）

今年の展示会場で最も注目されたのは、ニューヨークを本拠にするオール・モバイル・ビデオだ。同社は、4K HDR大型中継車と、子会社のVRLIVEが所有するVR中継車を目玉にして出展した。

「Zurich」と名付けた4K HDR大型中継車には、ソニーのビデオスイッチャー「XVS-8000」とスチューダーのオーディオコンソール「InfinityシリーズVistaX」が設置されていた。SW卓とVE席に配置された3台の4Kモニターもソニー製であった。4Kカメラについては、「16台まで扱える」と説明していた。

VR中継車では、車上に設置したノキアのVRカメラ「OZO」で撮影した展示会場の映像を、朋栄のビデオスイッチャー「HVS-390HS」を使ってライブ中継をするという予想外のデモを実施していた。

中継先は、イグロービジョン社がこの中継車の近くに設営したドーム状のミニシアター。中では台湾のベンキュー製プロジェクターを5台使って360度映像を上映していた。



オール・モバイル・ビデオは、子会社のVRLIVEが所有するVR中継車を出展

★トレーラー型中継車

ギアハウス・ブロードキャストは、最新のトレーラー型中継車「コロンバス」を出展して脚光を浴びた。印象的だったのは、VR撮影した展示会場の映像を、360度映像を上映していた。

★VR映像をデモ

ガーリング&アソシエーツは、プロショー・ブロードキャスト社向けに製作した2台の中型OB VANを披露した。「Maestro」「Ovation」と名付けられたこれら2台の中継車は、向けに実施したマスターズ・ゴルフ・トーナメントが挙げられる」という。

TVプロ・ギアは、4K対応中継車「4K Flypak」と、インテル向けに製作した最新のVR中継車「True VR」を出展して来場者の目を引いた。4K中継車は昨年出展したものとほぼ同様で、車内の機材はATEMライブプロダクションスイッチャーをはじめとして、ほとんどがブラックマジックデザイン製であった。



TVプロ・ギアは、インテルの「True VR」中継車を展示した

★IP向け車載局も

車載局の分野では、フロントライン、オン・コール・コミュニケーションズ、ライマン・ブラザーズなど6社がブースを構えていた。

フロントラインは、今回、悪天候や悪路にも耐えられる車載局に焦点を絞り出展した。その一例が、厳しい環境下でも使えるように設計したSUVシャシー・ベースの車載局「Weather Chaser」であった。

通信機能は「KuバンドとKaバンドに対応するIPベースの衛星通信、ボンデッド・セルラー回線、マイクロウエーブ・ネットワークの3系統が使える」という。

オン・コール・コミュニケーションズは、同社が誇る「QuickSpot」と「SkyLink」を紹介。「QuickSpot」は、IPに特化した車載局で、伝送速度20Mbpsまでのサービスが可能と売り込んでいた。料金については「サービスレート20Mbpsの場合で、1分8ドル25セント」と説明していた。

ユタ州に本社を構えるというライマン・ブラザーズは、車載局「LBi Sat」を披露した。同社向けに製作した強固で多機能を誇る車載局とのことであった。

★多用途の可搬局

可搬局の分野では、AvLテクノロジーズ、ゼネラル・ダイナミックス、コブハムが目に付いた。

AvLテクノロジーズは、低軌道・中軌道・静止軌道（MEO／LEO／GEO）衛星をすべてトラッキングできるというマルチオービット、マルチバンド可搬局を紹介して話題になった。

ゼネラル・ダイナミックスは、超軽量・超コンパクトにもかかわらず展開性能に非常に優れた可搬局「uPak」「uPod」を前面に押し出していた。重量は「uPak」が15キログラム、「uPod」が23キログラム。

コブハムは、可搬局としてアンテナ直径75センチメートルの「Explorer 5075GX」と、同1メートルの「Explorer 8100」を目玉に出展した。前者は、インマルサットが構築中のグローバル・エクスプレスKaバンド衛星に対応するシステムである。

★パラボラから平面に

VSATに関しては、パラボラより平面アンテナが目を引いた。長方形型と円形型の2種類の平面アンテナがあり、シンコムが、これら両方を一気に紹介して注目された。

長方形型平面アンテナは、「ThinPack Ku100i」と「ThinPack Ka100T」の2種で、パラボラアンテナに換算して両機種とも直径60センチメートル相当という。伝送速度については、どちらも上り10―16Mbps、下り20Mbpsと説明していた。

円形平面アンテナ「ThinSat300」は、乗用車の車上に搭載して出展した。送信用と受信用のアンテナを並べて別々に使用する設計になっているのが特徴。説明員は「伝送効率を上げるために2面にしている。このため衛星の捕捉に要する時間はわずか60秒」とPRに余念がなかった。

変わったところでは、チャレンジャー・コミュニケーションズが、中国から輸入したという平面アンテナ（外形寸法610×570×20ミリメートル）を出展していた。「スターウイン社のQDT-57OD型平面アンテナで、Kuバンド用とKaバンド用の2種類を用意している」という。

説明員によれば「両機種とも、既にインテルサット、SES、ユーテルサットの型式認証を取り付けており、国際的に認知された製品」とのことで、価格は「1台200Qドルの超低価格」という。

「28台の5Kカメラで撮影した」という。

★IP向け車載局も

車載局の分野では、フロントライン、オン・コール・コミュニケーションズ、ライマン・ブラザーズなど6社がブースを構えていた。

フロントラインは、今回、悪天候や悪路にも耐えられる車載局に焦点を絞り出展した。その一例が、厳しい環境下でも使えるように設計したSUVシャシー・ベースの車載局「Weather Chaser」であった。

通信機能は「KuバンドとKaバンドに対応するIPベースの衛星通信、ボンデッド・セルラー回線、マイクロウエーブ・ネットワークの3系統が使える」という。

オン・コール・コミュニケーションズは、同社が誇る「QuickSpot」と「SkyLink」を紹介。「QuickSpot」は、IPに特化した車載局で、伝送速度20Mbpsまでのサービスが可能と売り込んでいた。料金については「サービスレート20Mbpsの場合で、1分8ドル25セント」と説明していた。

ユタ州に本社を構えるというライマン・ブラザーズは、車載局「LBi Sat」を披露した。同社向けに製作した強固で多機能を誇る車載局とのことであった。

★多用途の可搬局

可搬局の分野では、AvLテクノロジーズ、ゼネラル・ダイナミックス、コブハムが目に付いた。

AvLテクノロジーズは、低軌道・中軌道・静止軌道（MEO／LEO／GEO）衛星をすべてトラッキングできるというマルチオービット、マルチバンド可搬局を紹介して話題になった。

ゼネラル・ダイナミックスは、超軽量・超コンパクトにもかかわらず展開性能に非常に優れた可搬局「uPak」「uPod」を前面に押し出していた。重量は「uPak」が15キログラム、「uPod」が23キログラム。

コブハムは、可搬局としてアンテナ直径75センチメートルの「Explorer 5075GX」と、同1メートルの「Explorer 8100」を目玉に出展した。前者は、インマルサットが構築中のグローバル・エクスプレスKaバンド衛星に対応するシステムである。

★パラボラから平面に

VSATに関しては、パラボラより平面アンテナが目を引いた。長方形型と円形型の2種類の平面アンテナがあり、シンコムが、これら両方を一気に紹介して注目された。

長方形型平面アンテナは、「ThinPack Ku100i」と「ThinPack Ka100T」の2種で、パラボラアンテナに換算して両機種とも直径60センチメートル相当という。伝送速度については、どちらも上り10―16Mbps、下り20Mbpsと説明していた。

円形平面アンテナ「ThinSat300」は、乗用車の車上に搭載して出展した。送信用と受信用のアンテナを並べて別々に使用する設計になっているのが特徴。説明員は「伝送効率を上げるために2面にしている。このため衛星の捕捉に要する時間はわずか60秒」とPRに余念がなかった。

変わったところでは、チャレンジャー・コミュニケーションズが、中国から輸入したという平面アンテナ（外形寸法610×570×20ミリメートル）を出展していた。「スターウイン社のQDT-57OD型平面アンテナで、Kuバンド用とKaバンド用の2種類を用意している」という。

説明員によれば「両機種とも、既にインテルサット、SES、ユーテルサットの型式認証を取り付けており、国際的に認知された製品」とのことで、価格は「1台200Qドルの超低価格」という。

VSATは平面アンテナが潮流

※新発売　マルチモニターウォール cyberWALL

大規模なモニターウォールから小規模なモニタースタンドとしてもご採用いただけるマルチなモニターウォールです。
設置されるロケーションやご要望の仕様に合わせてレイアウトすることが可能なため　放送局・データーセンター・証券・セキュリティなどの環境監視用から企業向け会議室・教育現場などあらゆるシーンに対応可能です。



スタンダードモデルから8Uストレージキャビネット搭載モデルの2タイプよりお選びいただけます。
※転倒防止のため、アンカーボルト施工をしてください。
もちろん、弊社にて設置作業も承ります。

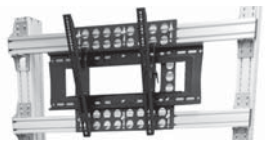
8Uストレージキャビネット搭載モデル



※19インチラックマウント機構を備えたストレージキャビネットです。
※キャビネットのキャスター仕様も対応可能です。

スタンダードモデル

モニター壁掛け金具
上下調整プレート付き



【構成品】

ケーブルマネジメント



あらゆるソリューション設備（医療／教育／映像／音響／情報）の筐体開発・設計・販売・施工
ニッキャビ株式会社　〒211-0051川崎市中原区宮内2-5-8　E-Mail:niccabi@niccabi.co.jp
TEL:044-766-2111 FAX:044-777-9000　URL:http://www.niccabi.co.jp

ケーブル連盟／ヒストリーチャンネル

4K共同製作番組企画

第3弾　採用12作品を発表

日本ケーブルテレビ連盟と、歴史エンターテインメント専門「ヒストリーチャンネル日本・世界の歴史&エンタメ」（以下、ヒストリーチャンネル）を運営するヒストリーチャンネル・ジャパンは、地域に根差すCATVが、地元に歴史的背景のある遺産を4K映像で記録し、全国に発信していく企画の第3弾として、「ニッポンの新・伝統工芸」を共同で展開する。

この企画は、ヒストリーチャンネル主催の「ヒストリーアワード」の審査員長で、歴史に造詣の深い松平定知氏を審査員長に迎え、全国のCATV事業者が応募した企画案の中から、12作品を選出したもの。選出されたCATV事業者は4Kで撮影する。

ヒストリーチャンネル制作の1本を加え、全13番組は、CATV業界共通の4K専門チャンネル「ケーブル4K」では今年12月以降に4K画質で、またヒストリーチャンネルでは、18年2月以降にHD画質で全国放送する。

また、同企画には東北新社が制作協力をする。同社の4Kでの撮影・プロダクションワークの技術力を生かし、制作協力や選出されたCATV事業者への4K撮影セミナーを実施。これにより4Kの魅力を発揮した番組に仕上がるよう展開する。

今回、伝統工芸の新たな取り組みと人物を取り上げ、地域の歴史ある文化を改めて見つめる映像を制作することにより、全国に地域の魅力をより強く広く発信していくとしている。

【ケーブルテレビ局制作採用作品（4K撮影／25分）】①「角館の樺細工～秋田」（秋田ケーブルテレビ）②「KIOKU GAMI 日本の記憶を呼び起こす和紙アート～千葉」（広域高速ネット二九六）③「各国首脳が手に「日本伝統の灯り和ろうそく」～愛知」（ミクスネットワーク）④「升～岐阜県 日本経済の目盛が新しい感性で蘇る～岐阜」（大垣ケーブルテレビ）⑤「伝統の和釘を後世へ「火造りのうちやま」の挑戦～新潟」（エヌ・シィ・ティ）⑥「若手職人の挑戦！新しい伝統工芸を開拓せよ～長野」（テレビ飯山）⑦「神秘の音色。人生を賭けて、鉄を打つ～兵庫」（姫路ケーブルテレビ）⑧「伝統をカラフルに～唐琴の畳縁～岡山」（倉敷ケーブルテレビ）⑨「香川の漆～私たちが描くミライノカタチ～香川」（ケーブルメディア四国）⑩「刺繍にかける伝統と進化～愛媛」（ハートネットワーク）⑪「壱州鬼凧 歴史と伝説を繋ぐ夫婦の物語～長崎」（壱岐ビジョン）⑫「M.E.I（明）長崎ビイドロ 龍の眼の化身～長崎」（長崎ケーブルメディア）

【ヒストリーチャンネル／東北新社制作（4K番組、HD番組／25分）】「千年の神業 日本刀」（ヒストリーチャンネル）

VRやドーム映像の制作向けに提供

動画素材販売サービス

HERE.が開始

ウェブサイトから購入

HERE.（ヒア／東京都新宿区）は、次世代のVR（バーチャルリアリティー）やドーム映像などの映像制作者向けに、素材販売プラットフォーム「Shout!360（シャウトサンロクマル）」のサービスを5月12日から開始した。


土井社長

ヒアは、プロジェクションマッピング（マッピング）や360度ドームパノラマ映像の制作に特化したビジュアルデザインスタジオ。2016年12月に多摩六都科学館で開催した、プラネタリウムを使った自社企画イベント「Schroeder-Headz Planetarium Premium Live『HORIZON』」が好評を博し、ソニー・ミュージックによる360度動画配信プラットフォーム「LittleStar Japan」において、特別編集版の配信が開始されている。

マッピングでは、百貨店の常設やホテル、アーチストのライブなど、大規模案件の実績を多数持つ。

同社の土井昌徳社長は「近年、VR対応360度全天球映像やドーム映像コンテンツの制作ニーズが増えている中、従来の映像編集で使用するようなエフェクトやCG素材などのリソースは不足している。また制作における推奨解像度の4K／2Kなどの素材を扱うワークフローは、制作者の作業負担やコスト負担が大きいのが現状である。このような状況を踏まえ、Shout!360のウェブサイトで8000円から購入でき、すぐに編集に使うことができる。

また、制作ノウハウや関連情報を発信していく「Tips」コーナーも設置した。Tipsでは注目のラップグループP.O.P（ピーオーピー）とコラボし、VRサービス「ハコスコ」とYouTubeで公開開始した360度ミュージックビデオ『Beer sogood!』のメイキングを順次公開する。

360度カメラで撮影し、Shout!360のエフェクト素材を使用したVR／ドームエンターテインメント映像制作の流れを、初心者でも分かりやすく解説している。

VR／ドーム映像制作者がすぐに作業に使え、演出効果を高めることのできる著作権フリーの動画素材を販売するビジネスを始めた」と語る。

Shout!360では、同社がこれまでマッピングやコンサートのステージビジュアルのCG制作で培った、高解像度映像制作・演出のノウハウやリソースを生かし、4K／2K全天球動画（エクイレクタンギュラー形式）に特化した動画ストック素材の制作および提供をする。初回ラインアップは30素材で順次追加予定。すべての動画素材はヒアが制作する。

すべての動画素材は、Shout!360のウェブサイトで8000円から購入でき、すぐに編集に使うことができる。

J:COM Wonder Studio

22日に開業5周年

ライブイベントを開催

ジュピターテレコム（J:COM）が運営する東京スカイツリータウン内の施設「J:COM Wonder Studio」は、5月22日に開業5周年を迎えた。



5周年記念イベントの様子

記念に開催されたスペシャルイベント「J:COM Wonder Studio×半崎美子 5th Anniversary トーク&ライブ」には、2013年から「J:COM Wonder Studio」で音楽活動を続け、今年4月にメジャーデビューしたシンガーソングライターの半崎美子が登場。さまざまな思い出を振り返るとともに、歌声を披露。さらに、同施設のスタッフから感謝状が贈られるサプライズもあった。

「J:COM Wonder Studio」は、東京スカイツリータウン内商業施設「東京ソラマチ」イーストヤード5階に開業して以来、500件を超えるイベントを開催。来場者数の累計は、300万人（3月25日時点）を超えるという。

EXA INTERNATIONAL

EXA NEXT RESOLUTION TRANSFORM 4K

内覧会開催のご案内

この度、弊社の4K、HDRといった次世代への取り組みに対し3つのキーワードを掲げ内覧会を企画いたしました。皆様のご参加を心よりお待ちしています。

NEXT（次の世代へ）
Resolution（4K、8Kやその先の高解像度映像へ）
Transform（変換サービスを）

開催日時 ── 平成29年6月9日(金) 10:00～18:00

開催場所 ── 東京都港区赤坂 2-16-9 エクサインターナショナル バーチャルスタジオ内
TEL 03-5575-3911(代)

概　　要 ── 各種サービスにおける4Kファイルベース運用のご紹介

主な展示 ── FT-ONE LS 4K ハイスピードカメラ / 4K HDR映像制作ワークフロー
4K アップコンバート・周波数変換 / 4K HDR エンコード技術
LTO、ODAへの4Kデータアーカイブサービス
4K クローズドキャプション（字幕）



大変お手数ですが、事前のご予約を賜りたく、ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。
● お電話でのご予約はこちらから　03-5575-3911
● WEB でのご予約はこちらから　www.exa-int.co.jp/EXA4K/

SONY

4K/60P
4K映像素材は、ソニー製
CineAlta 4Kカメラ「F65」で撮影。
イベントなど大画面にも対応可能。

HDR
PQ·HLG
PQ·HLG·その他HDRに対応可能。

UHD BD
HDR映像を
Ultra HD Blu-ray™でも提供。



高画質には理由がある。
ソニーPCL「高画質ビデオライブラリー」

Sony PCL　www.lib.sonypcl.jp　ソニーPCL 高画質

企画·制作＞撮影＞ポスプロ＞上映サポートまで、ソニーPCLの4Kワンストップソリューション。

※"Blu-ray Disc™"、"Blu-ray™"、"Blu-ray 3D™"、"Ultra HD Blu-ray™"は、Blu-ray Disc Associationの商標です。
※SONYおよびその他の名称は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
※記載されている名称等は、一般に各社の商標または登録商標です。

那覇と札幌の街頭ビジョン

4月に沖縄県那覇市を、5月に北海道札幌市を訪れる機会を得た。札幌市の大型映像については、3月の訪問時における状況をまとめたが、その後も新しい話題があったため、北と南のフルカラーLEDビジョンを使った大型映像ビジネスの最新動向をここで紹介する。

（川田宏之）

●那覇の中心市街地

那覇市の文化発信拠点として、国際通りの中心地に那覇市経済観光部が運営する「那覇市ぶんかテンブス館」が2004年にオープンした。「テンブス」とは、沖縄の方言でへそを意味し、国際通りのへそ（＝中心）として、芸能公演・音楽イベント・体験学習などが実施されている。

さらに14年3月20日には、那覇市の中心市街地活性化事業として、国際通りてんぶす前広場（てんぶす那覇）に街頭大型LEDビジョン「那覇てんぶすビジョン」（NECディスプレイソリューションズ製）が誕生した。



「那覇てんぶすビジョン」

多くの観光客でにぎわいを見せる国際通りであるが、一方で沖縄県民の国際通り離れが懸念されているという。都市機能の拡散、自動車化の進展、大型商業施設の郊外化、商店主の高齢化など社会構造の変化により、国際通りを含む商店街を取り巻く環境は大きく変化している。

市街地のさらなる活性化へ
圧倒的な認知度の「ヒロシ」



「Mhスーパービジョン」（正式稼働前の4月に撮影）

そこで、観光客にはこれまで以上に街を楽しんでもらい、県民には国際通りに足を運んでもらうことで中心市街地のさらなる活性化を目指し、那覇市では、国際通りのランドマークとなる屋外大型映像装置の導入を決めたという。

「那覇てんぶすビジョン」のスクリーンサイズは、縦4㍍×横7㍍（320型相当）で屋外用10㍉ピッチLEDモジュールを使用。沖縄の街頭の専門会社などが参加して随時、制作されている。

国際通りには、もう1つ有名な街頭大型ビジョンがある。国際通り入口（県庁北口交差点）では、長く地元企業のサンノアが「スーパービジョンサンノア」（赤見電機製）を10年以上にわたって運営していたが、昨年設置ビルの60年ぶりの建て替えに伴い放映を終了。今年5月1日に最新ビジョンに生まれ変わった。

名称は「Mhスーパービジョン」と変更されたが、設置場所は変わらない。運営会社はサンノアから沖縄県浦添市の企業であるMh沖縄に代わり、新たなスタートを切った。画面は、これまで以上の231型フルカラーLED大型映像装置にリニューアルした。

●札幌の「ヒロシ」

札幌市では、さっぽろ地下街札幌市営地下鉄大通駅側入り口で、三越札幌店地下2階入り口前の大型ビジョン「HILOSHI（ヒロシ）」01が、5月1日にリニューアルオープンした。この「ヒロシ」は、ビジョン名がそのまま待ち合わせの定番スポットとして、地元に知られている。

5月に札幌を訪れた時、10人程度の地元の若者に「ヒロシ」を知っているかと聞いたところ、ほぼ全員が待ち合わせ場所として認知していると回答した。ちなみに札幌駅前の「ファイターズビジョン」や、すすきの交差点の「サブロTV」についても聞いてみたが、大型ビジョンがその場所にあることは分かっているものの、名称について知る人は皆無であった。

すすきの交差点で「サブロTV」の運営を2015年から手掛けるホワイトカンパニーの小玉享幸社長が、大型ビジョンの開業前に札幌の街頭大型ビジョンの認知度の調査をしたところ「ヒロシの認知度が圧倒的に高かった」と話す。

全国の街頭大型ビジョンの業界団体である、日本パブリックビューイング協会の星野睦郎会長も「長年大型ビジョン事業を手掛けるが、一般の人に大型ビジョン名を覚えてもらうことほど難しいことはない」と話していた。



多くの札幌市民が待ち合わせ場所として利用する「HILOSHI」

長年にわたり「ヒロシ」を運営し、その知名度を高めたのは、前経営者であるラ・ウィルの女性社長、讃良美規氏の功績が大きい。

デジタルサイネージや街頭大型ビジョンを新規に設置するときに、よく耳にする言葉が「新たな待ち合わせ場所として利用してもらいたい」という言葉である。とは言え、それを定着させることは難しい。

15年ほど前、日本テレビ系の『24時間テレビ』で、大型映像を番組再撮用として業界では初めて運用したミジェットの小

大型フルカラーLEDが稼働

新時代の大型映像ビジネス 108

連載「新時代の大型映像ビジネス」での報告のとおり、さっぽろ地下街ポールタウン（札幌市中央区）の三越札幌店地下2階入り口前の大型ビジョン「HILOSHI（ヒロシ）」が5月1日にリニューアルされた。従来の液晶9面マルチディスプレー（138型、サムスン電子製）から、6㍉ピッチの高輝度LEDディスプレー（158型、ピーディーシー製）へと変わり輝度も大幅にアップした。

札幌都市開発公社が、「ヒロシ」を1994年4月から運営してきた民間会社のラ・ウィルから譲り受け、今年4月にリニューアル工事をして、5月から新体制での放映を開始した。「ヒロシ」の名称と特徴である黄色いロゴカラーは変更せず、毎日午前7時―午後9時の間、市町村のPRやニュース、企業CMなどを放映する。

94年の設置当初は、三菱電機製のDLP方式リアプロジェクターの4面マルチビジョンが設置されたが、その後サムスン製の9面マルチビジョンに変わり、今回フルカラーLEDビジョンとして新スタートを切った。

札幌都市開発公社から委託を受け、放映管理や運営はピーディーシー（PDC／東京都港区）が手掛ける。

札幌「HILOSHI」

高輝度LEDに更新
PDCが放映管理・運営



158型の大型LEDビジョンに生まれ変わった「HILOSHI」

デジタルコンテンツ白書2016

激動の真っただ中にあるコンテンツビジネスの"いま"を知る必携の書

コンテンツ産業の現状と将来展望を浮き彫りにすべく、内外専門家による執筆を豊富に盛り込みました。今回は、「映像コンテンツビジネスのパラダイムシフト」と題して、コンテンツを取り巻くプラットフォームの急激な変化について、事例とともに詳しく解説しています。市場動向の推移は、10年分を掲載し、詳細なデータがご覧いただけます。

●仕様：A4変型258頁　●定価：12,000円（税別、送料別途）
●発行日：2016年9月1日　●編集・発行：一般財団法人デジタルコンテンツ協会　●販売：映像新聞社



映像新聞ウェブサイトからご購入いただけます　http://www.eizoshimbun.com/online_subscription/dcwp.htm

●ご購入に関してのお問い合わせ●　株式会社 映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail:info@eizoshimbun.com

日本映画テレビ照明協会「第48回 照明まつり」

若手を対象にワークショップ

日本映画テレビ照明協会は4月21日、横浜市都筑区の撮影スタジオ「メディア・ガーデン」において「第48回 照明まつり」を開催した。毎年恒例の同イベントでは、協会が表彰する照明技術賞、協会賞、伊藤幸夫賞の授賞式のほか、若手照明技師や学生を対象としたワークショップ、最新機材の展示会が合わせて催されている。

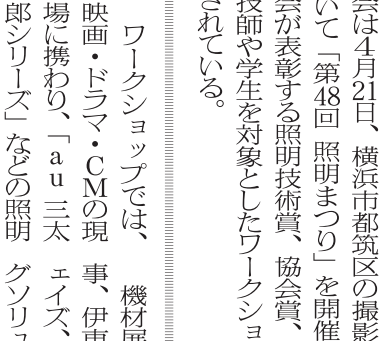
ワークショップでは、映画・ドラマ・CMの現場に携わり、「au 三太郎シリーズ」などの照明を担当している中須岳士氏が講師を務め、基礎から実践までを講義した。中村氏は、今回の照明技術賞MV部門で最優秀照明賞を受賞している。

基礎講座では、映像照明の考え方から、その基本となる光の4要素「光量」「光質」「光色」「方向性」について、実技を交えて具体的に解説。また、現場での安全遵守についても触れ、第二種電気工事士や足場組み立て作業などの資格取得の重要性も説明があった。

実践講座では、照明機材とスタジオ内に組まれたセットを使用し、さまざまなシチュエーションのセッティングを解説。参加者の質問やリクエストにも応えた。

機材展示は、アガイ商事、伊東洋行、オールウェイズ、河北ライティングソリューションズ、江東電気、国際照明、セコニック、ナックイメージテクノロジー、日本コーバン、ミーム、ライトアップ、ライトロン、ACTアクトに、メディア・ガーデンを加えた14社が製品を展示。多彩な照明機材のほか、周辺機材や消耗品まで、最新の製品が披露された。


ワークショップの様子


ワークショップの講師を担当した中須岳士氏

ワークショップが終了した午後4時以降は、参加していた学生らも来場し、各社ブースでのショートプレゼンテーションも実施して盛況となった。


機材展示会


アガイ商事


ナックイメージテクノロジー

14社が多様な最新機材を展示

アガイ商事は、全天候イト。480ワット、300ワット、160ワットの3モデルがラインアップされている。スモライトは照射角120度を実現した400ワットのドイツ製パネル型LEDライトで、複数を連結して使用することも可能。専用バッグでランタンとして使用できる天吊り用キットと、照射角を60度もしくは30度に変更できるレンズセットを同梱したスタンド用キットが用意されている。

ナックイメージテクノロジーは、ARRIのMシリーズHMIライト「M8」や「M18」、パネル型LEDライト「スカイパネル」のほか、高速バラスト「EB2・5／4 HSオートスキャン」を展示。また、米ブロックバッテリーの高電圧・多電圧・大容量ポータブルバッテリーシステムを国内初披露した。EB2・5／4 HSオートスキャンは、ARRI M40または2・5キロワット／4キロワットの昼光照明用に設計されており、3モード（全自動、手動周波数制御、手動周波数設定と自動周波数制御の組み合わせ）の高速動作によって、1000フレーム／秒以上の高速撮影に対応する。

また、ブロックバッテリーは、最大25アンペアでの高電流運用に対応したHSシリーズと、12ボルト／24ボルトの切り替え運用が可能なSシリーズをラインアップ。航空輸送で規制されないニッケル水素バッテリーを採用している。

照明機材のレンタルおよび販売業務も手掛けているメディア・ガーデンは、英ロトライトのパネル型LEDライト「ANOVA PRO」を展示。同機は映画的な照明特殊効果を実現するCine SFX機能を搭載しており、フリッカーボックスなしで、雷、火災、テレビなどのシミュレーションを実現。エフェクトはカスタマイズも可能で、ほかのLEDライトをDMX経由で同期させ、大規模に運用することもできる。

撮影用ランプを製造販売する河北ライティングソリューションズと江東電気は、ともにメタルハライドランプのシリーズを展示し、それぞれの有効性をアピールした。

日本コーバンは、新製品のLEDキャスターライトを参考出品。付属のコントローラーによってわずか760ワットながら4000ワット相当の出力を実現し、調光や色温度調整も可能となっている。上位機種の登場もアナウンスされており、基本性能や操作性が向上しているという。

セコニックは、好評のカラーメーター「スペクトロマスターC-700」のほか、今年に入って発売された露出計の新製品「スピードマスターL-858D」を展示。L-858Dは、シネカメラ／HDカメラモードの搭載、1―1000フレーム／秒のフレームレートや358度までのシャッター開角度設定、フィルター補正など、映画・動画機能の拡大が図られている。

また、撮影用消耗品を販売するACTアクトとオールウェイズは、新製品をアピール。ACTアクトは、ディフュージョンビニールのシリーズにグレーカラーを追加。オールウェイズは、カットの目安となる1ストップ四方の格子パターンを入れてリニューアルしたハレパネを展示した。


ロトライト「ANOVA PRO」（メディア・ガーデン）


LEDキャスターライト（日本コーバン）


セコニックの「スピードマスターL-858D」


照明技術賞の授賞式


映画部門およびCM・VP部門で優秀照明賞を受賞した中村裕樹氏

「照明技術賞」授賞式も開催

「第48回 照明技術賞」中村裕樹氏が選ばれた。は、映画、ドラマ、CM・MV、総合の各部門から優秀者を表彰。映画部門の優秀照明賞には、中村氏はCM・VP部門の優秀照明賞も受賞。また、第40回協会賞、第26回の伊藤幸夫賞も発表した。

◆第48回 照明技術賞

【映画部門 優秀照明賞】「怒り」担当：中村裕樹（本部）

【映画部門 新人賞】「湯を沸かすほどの熱い愛」担当：谷本幸治（APEX支部）、会員助手：河内大輔（APEX支部）、横山淳（本部）

【ドラマ部門 最優秀照明賞】「ABC創立65周年記念スペシャルドラマ『氷の轍』」担当：永田英則（本部）、会員助手：志村昭裕（本部）

【ドラマ部門 審査員特別賞】「木曜時代劇『ちかえもん』最終回～曽根崎心中万吉心中～」担当：牛尾裕一

【ドラマ部門 審査員特別賞】土曜ドラマ「『夏目漱石の妻』第1回～夢見る夫婦～」担当：富岡幸春（NHKメディアテクノロジー支部）、会員助手：宮田幸雄、前田晃、土岐勝貴（エクサート松崎支部）

【ドラマ部門 新人賞】「三重発地域ドラマ『ラジカセ』」担当：斉藤知久

【CM・VP部門 優秀照明賞】「東京シティ競馬 トゥインクルレースCM『仲直り編』」担当：中村裕樹（本部）、会員助手：加藤恵子（本部）

【MV部門 最優秀照明賞】「HARUHI『BANQUET』」担当：中須岳士（本部）、会員助手：小川真人（本部）、中川のどか（マジックハンド支部）

【総合部門 優秀照明賞】「NHKスペシャル『原発メルトダウン危機の88時間』」担当：井村正美（エクサート松崎支部）、会員助手：西山久美子、藤崎秀紀（バル・エンタープライズ支部）

◆第40回 協会賞

粂田啓一（本部）

◆第26回 伊藤幸夫賞

西山久美子（バル・エンタープライズ支部）

映像入札王のご案内

映像新聞社では、株式会社ズノーと業務提携し、同社の展開する入札情報提供サービスと連携した「映像入札王」を提供いたします。

全国の入札情報を毎日メールでお届け！
だからビジネスチャンスを見逃さない！

入札王
入札情報提供サービス

映像入札王とは？

**中央省庁、独立行政法人、地方自治体等の入札情報を提供するサービスです。
映像制作・関連機器、ホームページ制作、広告制作、情報処理、調査等あらゆる分野の最新の入札情報を毎日ご提供します。**

その特長は

1 業界最大級の圧倒的な網羅性

全国の発注機関（5,000 機関 8,000 サイト以上）を網羅。
専門スタッフの手動収集とプログラム収集の併用で収集漏れを回避。

2 案件見逃しゼロを実現

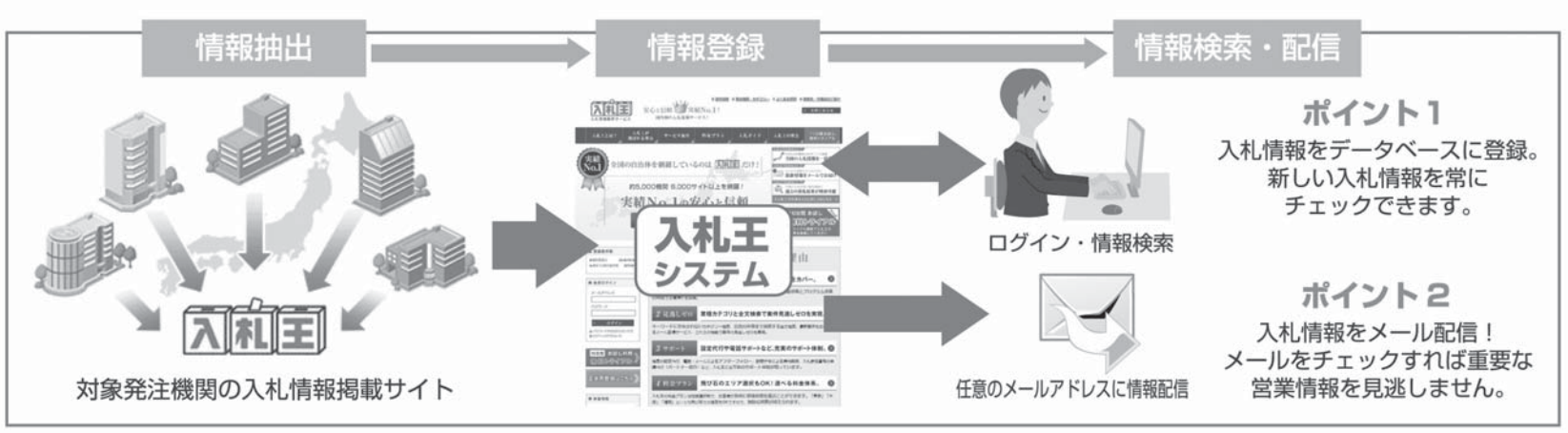
キーワードに左右されないカテゴリー検索、公告の中身まで検索する全文検索、最新案件をお届けするメール配信サービス、これらの機能で案件の見逃しゼロを実現。

3 充実のサポート体制

検索の設定代行、電話・メールによるアフターフォロー、訪問デモによる操作説明、入札参加資格の申請代行（パートナー紹介）など、入札王には万全のサポート体制が整っています。

4 リーズナブルな選べる料金プラン

入札王の料金プランは地域選択制で、お客様が自由に都道府県を選ぶことができます。「東京」「大阪」「福岡」といった飛び石での指定も OK ですので、無駄な経費が抑えられます。



10 日間 お試し
無料トライアル実施中

トライアル期間で入札王の
効果を実感してください

http://www.eizoshimbun.com

※『映像新聞』購読の方は、下記料金から 5%引きとなります。

料金表

入札王の料金表（税別）は次のとおりです。

発注地域の選択数	契約期間6ヶ月	1ヶ月あたり料金	契約期間12ヶ月	1ヶ月あたり料金
3都道府県	¥55,000	¥9,167	¥95,000	¥7,917
4都道府県	¥71,000	¥11,834	¥125,000	¥10,417
5都道府県	¥88,000	¥14,667	¥155,000	¥12,917
6都道府県	¥105,000	¥17,500	¥185,000	¥15,417
7都道府県	¥121,000	¥20,167	¥215,000	¥17,917
8都道府県	¥138,000	¥23,000	¥245,000	¥20,417
9都道府県	¥155,000	¥25,833	¥275,000	¥22,917
10都道府県	¥163,500	¥27,250	¥290,500	¥24,208
20都道府県	¥243,000	¥40,500	¥434,000	¥36,167
30都道府県	¥272,000	¥45,333	¥473,000	¥39,417
40都道府県	¥291,250	¥48,542	¥502,500	¥41,875
47都道府県	¥300,000	¥50,000	¥520,000	¥43,333

※15 都道府県、27 都道府県等もございますのでお問い合わせください。　（税別）

●お問い合わせはこちらへ。

株式会社ズノー 入札王事務局　〒106-0044 東京都港区東麻布 1 丁目 5-2 トウセン東麻布ビル 8F　TEL：(03) 6441-0332 ／ FAX：(03) 6441-0336

「ローマ法王になる日まで」

2013年3月13日に第266代ローマ法王に就任したフランシスコの半生を追う『ローマ法王になる日まで』（イタリア／ダニエーレ・ルケッティ監督／2015年製作、113分）が公開される。庶民的法王としてロックスター張りの人気を誘る彼の青春時代の苦悩を描き、多くの感動をもたらす。

（中川洋吉・映画評論家）

フランシスコ法王の本名はホルヘ・マリオ・ベルゴリオ（以下、ベルゴリオ／演じるのはロドリゴ・デ・ラ・セレナ）で、1936年に南米アルゼンチンで生れ、現在80歳。彼は南米大陸初の法王でもある。アルゼンチンは、革命家のチェ・ゲバラのような異色の人物を生み出す国だ。

カトリック教徒は、バチカンを中心にイタリア、スペイン、そしてスペイン語を話す南米でも信者は多く、世界的には12億人の巨大宗教団体であり、法王の威光は世界中に及ぶと言っても過言ではない。

若き宗教者として活躍するベルゴリオは、1970年代には、血の独裁政治によるビデラ政権と並走する。その半生を描く『ローマ法王になる日まで』は、1日も休む間もなく働く彼の苦悩と苦闘の日々の物語である。

まさに、明日をも知れぬ、命を賭ける日々であり、その時期をいかにくぐり抜け、逃げることなく生きた毎日が、作品のメイン潮流として活写されている。



『ローマ法王になる日まで』（信者とベルゴリオ）　© TAODUE SRL 2015

◆圧殺の系譜

ビデラ政権（1976―83年）は3万人に及ぶ強制失踪（拉致し殺害）、チリのピノチェット政権（1973―80年）は3000人殺害、韓国の全斗換（チョン・ドゥファン）政権による光州事件（1980年5月）では170人を殺害、そしてインドネシアのスハルト政権時代（1968―98年）は100万人の一般人が殺害されている。

これらの政権は、みな軍事独裁で反共主義による弾圧と大量虐殺であり、最高責任者である実行者は刑を免れている。アルゼンチンのビデラ大統領（2013年死去）には終身刑の判決は下されたが、果たして服役していたのであろうか。インドネシアのスハルト大統領は畳の上で大往生、チリのピノチェット大統領の収監の話もない。

韓国の全斗換大統領も無期懲役を言い渡されたが、なぜか恩赦に浴し、現在でも護衛付きでソウル市内を歩いているそうだ。映画では光州事件を扱う『華麗なる休暇』（2007年／キム・ギフン監督、アン・ソンギ主演）に詳しい。

インドネシアの赤狩りでは100万人の人々が殺害されたとされ、暗黒政治を告発する『アクト・オブ・キリング』（2012年／ジョシュア・オッペンハイマー監督／英・デンマーク・ノルウェー製作）がある。

これら軍事政権は赤狩りに狂奔したが、一方、経済立て直しが長期政権維持を可能とした。

◆暗黒時代の始まり

軍事政権下に生きるベルゴリオは、20歳の時にイエズス会に入会、神の道へ入り、瞬く間に指導者としての資質が認められ、35歳の若さでアルゼンチン管区長に任命される。

彼の信条は、法王就任の際の記者会見での発言「私は貧しい人々による、貧しい人々のための教会を望みます」であり、常に貧しい人たちに寄り添う行動であり、2つ返事で引き受けることではなく、彼自身の苦悩は深い。既に軍事政権と組むカトリック上層部では、革新派の動きを反カトリックとし、教会と反体制的神父たちとの板挟みの連続である。この状態がアルゼンチン時代にずっと続く。

最初の行動はほかの神父から、反政府運動に加わった3人の学生たちをかくまい、夜陰に乗じて秘かに彼らを隣国ウルグアイへ脱出させ、これに成功する。

彼や友人たちの周囲には、神父のスパイが潜入し、ベルゴリオたちの一挙手一投足を注意深く監視する。しかし、一方では教会の命令にも従わざるを得ない立場に立たされる。



バチカンのフランシスコ法王
© TAODUE SRL 2015

◆軍事政権下の苦悩

ベルゴリオは、アルゼンチン管区長時代には信者たちから希望の星とされるが、教会も軍事政権に力を入れる「解放の神学」と呼ばれるカトリック左派が力を得、多くの信者を獲得し始める。しかし、元来、保守的なカトリックの総本山バチカンは、マルクス主義に依拠するこの一派の存在を認めず、右派の軍事政権は彼らを血の赤狩りの対象とする。

この軍部の行動は、チリ、インドネシア、韓国の弾圧と同じである。ベルゴリオ自身も、貧乏人と寄り添うことをカトリック神父としての本分とし、積極的に貧民救済に務める。

◆友人たちの拉致

軍の弾圧は日々激しくなる。積極的に貧民の世話をする別の2人の神父に活動の停止を求めるため、上層部の命を受け説得に乗り出すが、熱心な2人の神父は拒否する。ベルゴリオとしては「無理に中央突破し、玉砕すれば元も子もない」は沈黙を強いられる。

◆「解放の神学」

軍事政権以前から、南米カトリック界では貧乏人に寄り添い、布教活動に力を入れる「解放の神学」と呼ばれるカトリック左派が力を得、多くの信者を獲得し始める。しかし、元来、保守的なカトリックの総本山バチカンは、マルクス主義に依拠するこの一派の存在を認めず、右派の軍事政権は彼らを血の赤狩りの対象とする。



祈るベルゴリオ　© TAODUE SRL 2015

この軍部の行動は、チリ、インドネシア、韓国の弾圧と同じである。ベルゴリオ自身も、貧乏人と寄り添うことをカトリック神父としての本分とし、積極的に貧民救済に務める。

◆友人たちの拉致

軍の弾圧は日々激しくなる。積極的に貧民の世話をする別の2人の神父に活動の停止を求めるため、上層部の命を受け説得に乗り出すが、熱心な2人の神父は拒否する。ベルゴリオとしては「無理に中央突破し、玉砕すれば元も子もない」との考えだが、使命感に燃える2人の神父は急進的行動を選ぶ。実に悩ましい問題だ。

結局、神父2人は教会から追放され、軍に拉致され行方不明となる。作中、アルゼンチンの大統領が「行方不明者については、軍は関知せず」と公言する実写のテレビ放送が映し出される。「死んでなければ、政府としても手の打ちようがない」と高飛車な論理である。

続けて、友人、恩師の妊娠中の娘、そして恩師も拉致される。その後、彼らは飛行機から次々と投棄されるという、世にも残酷な罪を犯す。その事件の前に、事態を憂慮するベルゴリオは、聖職者の特権で大統領府に乗り込み、ミサを挙げる。そのためか、一時、行方不明だった恩師の娘が戻るひとコマもある。

◆ベルゴリオのもうひとつの働き

苦難の時代をアルゼンチンで耐え忍び生きるベルゴリオは、軍事政権退陣後、神学を学びにドイツへ留学し、そこで初めて休暇が取れる。今までは日夜睡眠を削り働く彼にとり、命の洗濯である。

その後、ブエノスアイレスに戻った当初は、田舎神父として穏やかに暮らすが、上層部は優秀な彼を遊ばせるわけがなく、すぐに首都に引き戻される。

そこで、また再開発絡みの闘争を貧困地区の住民のために、仲介をせざるを得ず、乱闘寸前に現場に乗り込み、住民、警官の間に入り、ミサを執り行う。

説教に心を打たれる住民、そして警官までも脱帽し、敬意を現わすシーンは、作品のラストを締めるハイライトである。

◆法王フランシスコ

ラストは、バチカンにおける法王選出のコンクラーベで、ベルゴリオは第266代法王に選出される。その時のあいさつで、まず「ボナセーラ」と口にし、庶民的な新法王への親近感で、サン・ピエトロ広場を埋める群衆を熱狂させる。

貧しい人に寄り添う法王は、軍事政権下での苦悩、人々に光明を与え続ける姿に感動させるが、同時に、軍事政権の血の支配を忘れてはいけないことを本作は教えてくれる。

〈文中敬称略〉

▣『ローマ法王になる日まで』は、6月3日から、ヒューマントラストシネマ有楽町、新宿シネマカリテ、YEBISU GARDEN CINEMAほか全国順次ロードショー

アルゼンチン軍事政権下での苦闘
フランシスコ法王の半生描く
若き宗教者として貧民を救済

新発売
映像新聞 縮刷版
2016年後期版（7月～12月）

半年分の映像新聞を1冊にまとめた「2016年後期縮刷版」が発行となりました。めまぐるしく変化する映像業界の動向を集約する「映像新聞縮刷版」は、目次には、ジャンルごとに項目を掲載し、業界の動向が簡単に索引できるようになっております。企業のビジネス戦略において、貴重な情報ツールとして、また、保存版の映像新聞として広くご利用いただいております。

仕様：A4判／価格：7,000円（税別、送料別途）



ご購入は映像新聞ウェブサイトからお申し込みいただけます　www.eizoshimbun.com
アマゾン（www.amazon.co.jp）、富士山マガジンサービス（www.fujisan.co.jp）からもご購入いただけます

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ

株式会社映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾ-ビル／TEL：03-3942-2161／FAX 03-3942-2581　e-mail：info@eizoshimbun.com

映像プロダクション年鑑2017
THE AUDIOVISUAL PRODUCTION YEARBOOK 2017

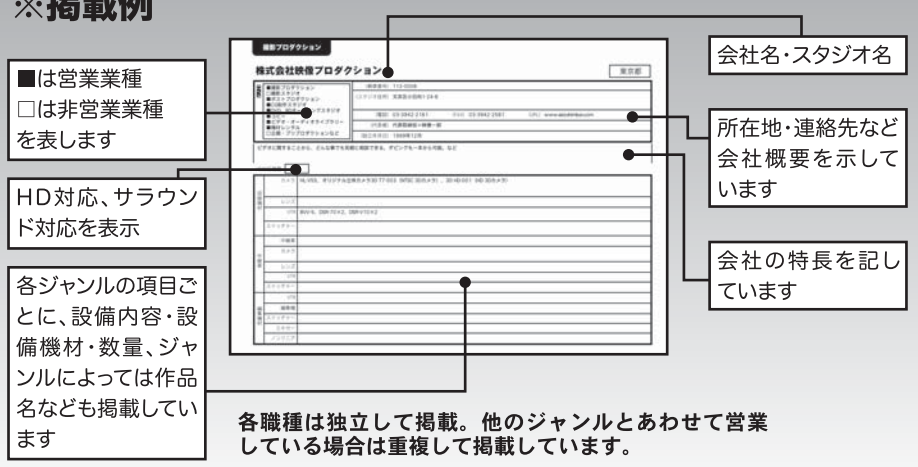
掲載プロダクション全国564社の企業概要・設備全貌を掲載

好評発売中



本書は、全国の技術系映像プロダクションについて、業種別（撮影プロダクション、撮影スタジオ、ポストプロダクション、CG制作スタジオ、DVDオーサリングスタジオ、ビデオ・オーディオライブラリー、機材レンタル、企画・プリプロダクション）に、会社概要および設備内容、巻末にはオンライン編集室、MA室の一覧を掲載しております。

※掲載例



各職種は独立して掲載。他のジャンルとあわせて営業している場合は重複して掲載しています。

ご購入は映像新聞ウェブサイトからお申し込み頂けます
http://www.eizoshimbun.com
アマゾン（www.amazon.co.jp）、富士山マガジンサービス（www.fujisan.co.jp）からもご購入いただけます
●A4判　●570ページ　●価格／¥5,800＋税（送料別）

ご注文　ご住所、貴社名、所属部署、ご担当者氏名、連絡先をご記入の上、FAXでお送りください。請求書は商品と一緒に郵送いたします。

映像プロダクション年鑑2017申込書
FAX：03-3942-2581

お申し込み日　　年　　月　　日

会社名			
所属・役職		氏名	
電話		ファクス	
郵便番号	住所		
数量	部	金額	円

●お問い合わせ●
株式会社映像新聞社　東京都文京区小日向1-24-8　エイゾービル　TEL：03-3942-2161　FAX：03-3942-2581　メールアドレス：info@eizoshimbun.com　URL：www.eizoshimbun.com

サウンドおよびライティング
「機材展2017」開催
イースペック 東名阪3都市で実施

イースペックは、サウンドおよびライティング機材の展示会「機材展2017」を東名阪の3都市で開催する。

今年から大阪会場を阿倍野区民センター大ホールに変更し、音響照明関連企業が18社出展する。名古屋会場では、イースペックによる製品・サービスと向き合うことができる濃密なプライベート展示会を実施。東京会場は、新宿村スタジオセントラルの2室において25社の出展が決定している。

イースペックは、サウンドおよびライティング機材の総合展示会として、高機能化が進むステージライティングとプロオーディオを一堂に会した新しい技術や製品に触れられる機会となる。

◆機材展2017

【大阪】▽日時＝6月20、21日／10―19時（両日とも）▽会場＝阿倍野区民センター大ホール（大阪市阿倍野区阿倍野筋4―19―118）

【名古屋】▽日時＝6月28日10―19時、29日／10―17時▽ライブハウス伏見JAMMIN（名古屋市中区栄2―7―1 東洋パーキングビル1階）

【東京】▽7月6日／10―19時、7日／10―17時▽新宿村スタジオC10 5―C106（東京都新宿区北新宿2―1）

【日時】5月30日／第1部＝13時30分―15時、第2部＝16時―17時30分（内容は同じ）

【会場】はんぷ内（大阪市北区西天満3―5―4 アカシヤビル4階）

【参加費】無料（事前申込制／各回定員15人）

【申し込み】peatix.com/event/266597

今回のローンチイベントでは、GB Labs社の副社長による製品紹介プレゼンテーション、Easy LTO実機を前にしたフリーディスカッションを実施する。

GB Labs社
「Easy LTO」を披露
30日に大阪でイベント

GB Labs社は、アスク メディア&エンタープライズ事業部およびコブと共同で、5月30日に高速NASストレージとLTOアーカイブを兼ね備えた最新製品「Easy LTO」のローンチイベントを大阪で開催する。

Easy LTOは、ネットワーク共有ストレージ（NAS）の製造会社GB Labs社が開発した新たなLTOアプライアンス。直感的な操作で扱える高度なファイル管理ソフトウエアが搭載されており、高速なスループット、TARとLTFSへの対応、サードパーティー製のLTOシステムからの移行機能などを特徴としている。

今回のローンチイベントはインターネット上に掲載された作品。応募対象は英語、ドイツ語、フランス語の作品のみ。他の言語でのエントリーも可能だが、審査員が作品を評価できるよう、英語での字幕およびシノプシスを英訳の上、応募すること。

【費用】応募には作品と部門それぞれに費用がかかる。1件目の応募費用は、企業映像、TVドキュメンタリー・ルポルタージュ、オンラインメディアの各部門が290㌦、制作技術部門が190㌦、学生部門が100㌦

【詳細】www.cannescorporate.com

作品募集

◇「第8回 カンヌコーポレートメディア&TV大賞」作品募集

オーストリアのフィルムサービスインターナショナル社が主催するカンヌコーポレートメディア&TV大賞の作品を募集している。2010年創設以来、企業映像のグローバルスタンダード構築を目指すフェスティバルで、企業映像、オンラインメディア、TVドキュメンタリーなどの分野をカバーする世界の優れた映像作品をフランス・カンヌで毎年表彰している。

今年の表彰式は、9月27、28日に開催される。

【応募締め切り】6月2日

【応募条件】15年1月1日以降に制作・放送また

RED RAVENトライアル レンタルサービス開始
RAID　1日2万7000円から

小輝日文グループのRAIDは、「RED RAVENトライアルレンタル」を開始した。「RED RAVEN」を利用金額分を割引

トライアルレンタル」は、同社取り扱いのRED デジタルシネマ社製品購入を前提とした、トライアル使用が目的の独自サービス。今後は、各種トレーニングの開催など、ユーザーの要望に応え、さらなるサービスを提供する予定

【価格】2万7000／1日（土日祝日が入る場合は、別途料金が発生）

【特典】トライアルポイントを付与＝トライアル使用金額分を、次回以降の機材購入代金からの値引きとして利用できるサービス（割引額は購入機材の最大50%まで）

【申し込み】▽ウェブサイト＝support-raid-japan.com/rental-list/▽☎03―5765―2044（担当：山口／営業時間10―19時・月―金、祝日は除く）

イベント

◇情報処理推進機構／経済産業省「2016年度未踏事業クリエータ交流会」

「未踏事業」は、ITを駆使してイノベーションを創出することのできる独創的なアイデアと技術を有するとともに、これらを活用する優れた能力を持つ、突出した若い人材を発掘・育成することを目的としている。

「2016年度未踏事業クリエータ交流会」は、16年度未踏クリエイターの成果を間近で体感できる機会であるとともに、未踏クリエイターと交流できるイベント。会場では、16年度修了したすべてのプロジェクトブースを用意する（入場無料／事前申し込み制）。

【2016年度未踏事業クリエータ交流会】▽日時＝6月3日／14時―15時40分▽会場＝大手町サンケイプラザ 303＋304号室（東京都千代田区大手町1―7―2）▽定員100人程度

【2016年度（第23回）未踏IT人材発掘・育成事業修了式 兼スーパークリエータ認定証授与式】▽日時＝3日／16―18時▽会場＝大手町サンケイプラザ 301＋302号室▽定員80人程度

【申し込み】Eメール＝iac-mitouvent@ipa.go.jp

【詳細】www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2016/juyoshiki_23th.html

「情報」がビジネスを熱くする。

映像新聞は、放送やブロードバンド、デジタルコンテンツプロダクション、映像制作者など映像業界へ向け、ビジネスとテクノロジーの両視点で情報を発信している専門紙です。映像のデジタル化は、デジタル放送やデジタルシネマといった新しい文化を創り、ブロードバンドにより新しいコミュニケーションを発達させました。映像新聞は、これらの動きをいち早く伝え、新鮮な情報をお届けいたします。
ビジネスを熱くするメディア……それが「映像新聞」です。

映像新聞

毎週月曜日、月4回発行（年間48回発行）
基本ページ数
20～24ページ／タブロイド判
年間購読料：26,000円（送料込み）＋消費税

海外での購読の場合は、消費税分を除いた料金に別途送料がかかります。　詳しくはお問い合わせ下さい。

ウェブサイトからお申し込みができます
www.eizoshimbun.com

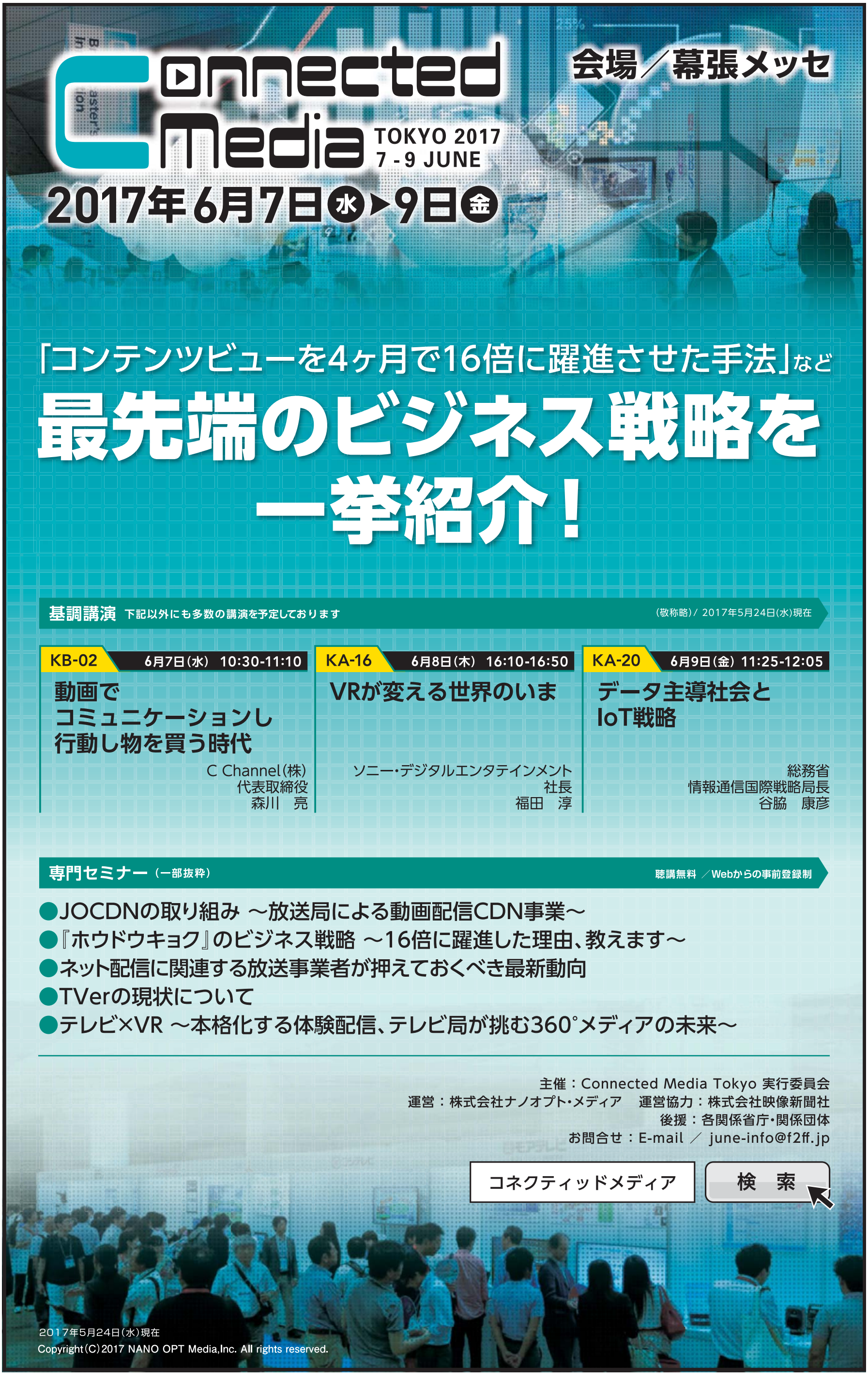
短期購読および複数購読のご案内

●短期購読の場合
◎3カ月購読の場合：7,200円（1部600円×12回）＋消費税
◎6カ月購読の場合：14,400円（1部×24回＋消費税）

●複数購読の場合（年間購読契約のみ）
対象となる購読者（以下の3つの条件をすべてを満たすこと）
◎送付先が同一であること
◎請求先が同一であること（送付先とは別でも可）
◎購読契約期間（契約更新月）が同一であること

※料金（申し込み部数により料金を割引きます）
・2–5部は10%割引き　（1部、年間23,400円＋消費税）
・6–9部は20%割引き　（1部、年間20,800円＋消費税）
・10部以上は30%割引き（1部、年間18,200円＋消費税）

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ。
映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail:info@eizoshimbun.com


Connected Media
TOKYO 2017
7 - 9 JUNE
会場／幕張メッセ
2017年6月7日水▶9日金
「コンテンツビューを4ヶ月で16倍に躍進させた手法」など
最先端のビジネス戦略を
一挙紹介！
基調講演　下記以外にも多数の講演を予定しております
（敬称略）/ 2017年5月24日(水)現在
KB-02　6月7日(水)　10:30-11:10
動画で
コミュニケーションし
行動し物を買う時代
C Channel(株)
代表取締役
森川　亮
KA-16　6月8日(木)　16:10-16:50
VRが変える世界のいま
ソニー・デジタルエンタテインメント
社長
福田　淳
KA-20　6月9日(金)　11:25-12:05
データ主導社会と
IoT戦略
総務省
情報通信国際戦略局長
谷脇　康彦
専門セミナー（一部抜粋）
聴講無料 ／Webからの事前登録制
●JOCDNの取り組み ～放送局による動画配信CDN事業～
●『ホウドウキョク』のビジネス戦略 ～16倍に躍進した理由、教えます～
●ネット配信に関連する放送事業者が押えておくべき最新動向
●TVerの現状について
●テレビ×VR ～本格化する体験配信、テレビ局が挑む360°メディアの未来～
主催：Connected Media Tokyo 実行委員会
運営：株式会社ナノオプト・メディア　運営協力：株式会社映像新聞社
後援：各関係省庁・関係団体
お問合せ：E-mail ／ june-info@f2ff.jp
コネクティッドメディア
検　索
2017年5月24日(水)現在
Copyright(C)2017 NANO OPT Media,Inc. All rights reserved.